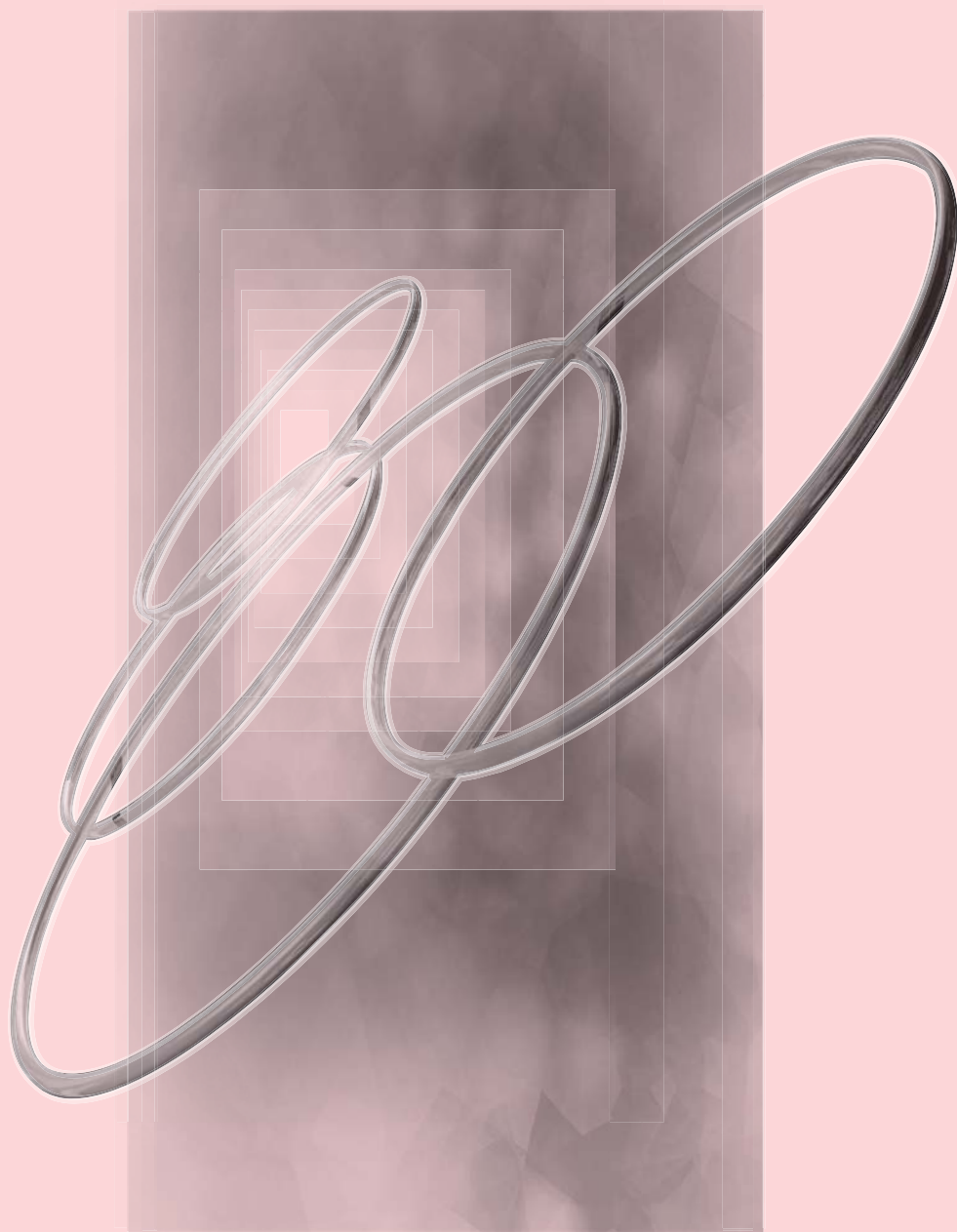


2007年度

シラバス ドイツ語学科



ドイツ語学科 シラバス

【総合目次一覧】

◆ 【2005/2006/2007年度】入学生用

学則別表…………… I - 1

科目特性表…………… I - 2～3

授業科目目次…………… I - 4～6

外国語学部共通科目…P.74以降に掲載

◆ 【2003/2004年度】入学生用

学則別表…………… II - 1

科目特性表…………… I - 2～3

授業科目目次…………… II - 4～6

外国語学部共通科目…P.74以降に掲載

◆ 【2002年度以前】入学生用

学則別表…………… III - 1

授業科目目次…………… III - 2～3

英語科目目次…………… III - 4

外国語学部共通科目…全学共通授業科目(別冊子)の
シラバスに掲載

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

シラバス掲載事項

： 2003～2007年度入学生・・・「ドイツ語学科授業科目」「外国語学部共通科目」

： 2002年度以前入学生・・・「ドイツ語学科授業科目」「英語授業科目」

各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

*履修不可学科の表記

外：外国語学部 養：国際教養学部言語文化学科 経：経済学部 法：法学部
 独：ドイツ語学科 濟：経済学科 律：法律学科
 英：英語学科 営：経営学科 国：国際関係法学科
 仏：フランス語学科
 言：言語文化学科
 言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者
 言（*2）：言語文化学科、中国語履修者
 全：ドイツ語学科以外

①適用年度	② 科目名	③ 担当者
春学期	④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法
①適用年度	② 科目名	③ 担当者
秋学期	④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
	⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法

*上段は、春学期科目です。

- ①②入学年度により科目名が異なります。
 ・05年度以降：2005/2006/2007年度入学生を表します。
 ・03年度以降：2003/2004年度入学生を表します。
 ・入学年度で科目名が異なりますので、各自、目次で確認してください。2002年度以前入学生については目次を参照して科目名を確認してください。
- ③ 担当教員氏名
 ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
 ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
 ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
 ⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

[春・秋共通注意]

1.定員
 科目の中には定員制のものがあります。それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学則別表の見方(2005年度以降入学ドイツ語学科生用)

5・6学期に履修する「専門演習」は「類」別に開設されているので4学期実施の演習選択・決定により「類」も決定。

単位数
その科目を修得した時に得られる数字。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等が必要。

必修科目
必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければならない。

選択必修科目
この範囲にある科目の中からその数字の単位数分を修得すればOK。(例:ドイツ語学概論Ⅰ・Ⅱ(2単位×2科目)の合計4単位修得)4単位以上修得した場合は選択の単位数に加算される。この選択必修の範囲はⅠ類の場合です。

選択科目
矢印の範囲内から数字の単位数以上を修得する。

外国語学部共通科目
科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位は選択に加算される)

全学共通授業科目(全カリ)
のシラバスから選んで登録する。外国語科目(英語)は指定。その他の科目はオンラインによる登録・抽選。(詳しくは授業時間割表参照)

Ⅰ類:言語・文学部門
Ⅱ類:思想・芸術部門
Ⅲ類:歴史・社会部門

部門	科目	単位	Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅲ類		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学社基礎科目	総合ドイツ語Ⅰ	1	3			3			3		
	総合ドイツ語Ⅱ	1	3			3			3		
	総合ドイツ語Ⅲ	1	3			3			3		
	総合ドイツ語Ⅳ	1	3			3			3		
	基礎ドイツ語Ⅰ	1	2			2			2		
	基礎ドイツ語Ⅱ	1	2			2			2		
	基礎ドイツ語Ⅲ	1	2			2			2		
	基礎ドイツ語Ⅳ	1	2			2			2		
	ドイツ語LLⅠ	1	1			1			1		
	ドイツ語LLⅡ	1	1			1			1		
ドイツ語	ドイツ語入門Ⅰ	2	2			2			2		
	ドイツ語入門Ⅱ	2	2			2			2		
基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅰ	2	2			2			2		
	基礎演習Ⅱ	2	2			2			2		
学社共通科目	英語	10		4***		10		4***	10		4***
	総合ドイツ語Ⅴ	1	2			2			2		
	総合ドイツ語Ⅵ	1	2			2			2		
	上級ドイツ語(時事)	2		4			4			4	
	上級ドイツ語(会話)	2		4			4			4	
	上級ドイツ語(作文)	2		4			4			4	
	上級ドイツ語特殊演習	2		4			4			4	
	中世ドイツ語Ⅰ	2									
	中世ドイツ語Ⅱ	2									
	近代特殊演習Ⅰ	2									
近代特殊演習Ⅱ	2										
CAI特殊演習	2										
Ⅰ類:言語・文学	ドイツ語学概論Ⅰ	2		4							
	ドイツ語学概論Ⅱ	2		4							
	ドイツ文学概論Ⅰ	2									
	ドイツ文学概論Ⅱ	2									
	ドイツ語学各論Ⅰ	2									
	ドイツ語学各論Ⅱ	2									
	ドイツ文学各論Ⅰ	2									
	ドイツ文学各論Ⅱ	2									
	ドイツ語学・文学特殊講義	2									
	ドイツ語学・文学特殊講義	2									
Ⅱ類:思想・芸術	ドイツ語学(語学)	2				8**				8**	
	ドイツ語学(文学)	2					8**				
	ドイツ語学・文学特殊講義	2									
	ドイツ文化史概論Ⅰ	2		4	4**						
	ドイツ文化史概論Ⅱ	2					2			2	
	ドイツの思想Ⅰ	2					2			2	
	ドイツの思想Ⅱ	2									
	ドイツの音楽Ⅰ	2									
	ドイツの音楽Ⅱ	2									
	ドイツの美術Ⅰ	2						8			
ドイツの美術Ⅱ	2							8			
Ⅲ類:歴史・社会	ドイツの演劇Ⅰ	2						24			
	ドイツの演劇Ⅱ	2						24			
	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	2									
	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	2									
	ドイツ思想・芸術特殊講義	2									
	ドイツ語講義(思想)	2		8**						8**	
	ドイツ語講義(芸術)	2		8**						8**	
	ドイツ思想・芸術特殊講義	2									
	専門演習(思想・芸術)	2			4	4**					
	ドイツ史概論Ⅰ	2							2		
ドイツ史概論Ⅱ	2							2			
ドイツの歴史Ⅰ	2										
ドイツの歴史Ⅱ	2										
ドイツの社会・事情Ⅰ	2										
ドイツの社会・事情Ⅱ	2										
ドイツの地理・民俗Ⅰ	2										
ドイツの地理・民俗Ⅱ	2										
ドイツの政治・対外関係Ⅰ	2								8		
ドイツの政治・対外関係Ⅱ	2								8		
ドイツの経済Ⅰ	2										
ドイツの経済Ⅱ	2										
ドイツの法律Ⅰ	2										
ドイツの法律Ⅱ	2										
ドイツ史・社会各論Ⅰ	2										
ドイツ史・社会各論Ⅱ	2										
ドイツ史・社会特殊講義	2										
ドイツ語講義(歴史)	2		8**								
ドイツ語講義(社会)	2					8**					
ドイツ史・社会特殊講義	2								8		
専門演習(歴史・社会)	2							4	4**		
総合講座	2										
卒業論文	8										
外国語学部共通科目(別表1-5)											
全学共通授業科目(全カリ)	全学共通科目Ⅰ	4		8			4		8		8
	全学共通科目Ⅱ	4		4			4		4		4
	全学共通科目Ⅲ	4		4			4		4		4
	全学共通科目Ⅳ	4		4			4		4		4
英語以外の外国語科目											
古典語科目											
卒業に必要な単位数合計			52	48	28	56	44	28	56	44	28
			128			128			128		

それぞれの類の2ヶ所について「8**」について...2ヶ所の範囲の科目の中から合計8単位分を修得する。
また4単位分は専門演習「4**」で修得してもOK
ここでのモデルはⅢ類です。

卒業するまでには最低限128単位が必要

全カリ、各カテゴリーの選択必修必要単位数の他にさらに4単位を修得しなければならない(英語も含んでOK)。4単位以上修得した場合は学科の選択に加算される。

注意 卒業・進級判定時に全カリの科目が不足している場合のみ教職課程科目を全カリ科目に読み替えることができます。読替可能単位数は20単位まで。ただし、学科の選択に加算することはできません。

(1)主として履修する部門より、「専門演習」4単位必修、他に「概論」4単位(Ⅰ類、Ⅲ類では必修)、「各論」8単位、「ドイツ語講義」8単位を選択必修として履修する。各課も他の部門よりドイツ語講義8単位(8**)を選択必修として履修する。主専攻以外の「ドイツ語講義」に換えて「専門演習」(4**)を2単位まで履修できる。
(2)卒業に必要な履修単位のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
(3)***全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
○本表は2005年度入学者から適用する。

学則別表(2005・2006・2007年度入学者用)

科目番号	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	総合ドイツ語 I	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 II	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 III	1	3			3			3		
		総合ドイツ語 IV	1	3			3			3		
		基礎ドイツ語 I	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 II	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 III	1	2			2			2		
		基礎ドイツ語 IV	1	2			2			2		
		ドイツ語LL I	1	1			1			1		
		ドイツ語LL II	1	1			1			1		
		ドイツ語圏入門 I	2	2			2			2		
ドイツ語圏入門 II	2	2			2			2				
基礎演習 I	2	2			2			2				
基礎演習 II	2	2			2			2				
全学共通	英語			10		4***	10		4***	10		4***
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 V	1	2			2			2		
		総合ドイツ語 VI	1	2			2			2		
		上級ドイツ語(時事)	2		4			4			4	
		上級ドイツ語(会話)	2									
		上級ドイツ語(作文)	2									
		上級ドイツ語特殊演習	2									
		中世ドイツ語 I	2									
		中世ドイツ語 II	2									
		通訳特殊演習 I	2									
		通訳特殊演習 II	2									
		GAI特殊演習	2									
学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論 I	2		4							
		ドイツ語学概論 II	2									
		ドイツ文学概論 I	2									
		ドイツ文学概論 II	2									
		ドイツ語学各論 I	2									
		ドイツ語学各論 II	2									
		ドイツ文学各論 I	2		8							
		ドイツ文学各論 II	2									
		ドイツ語学・文学特殊講義	2									
		ドイツ語講読(語学)	2					8**			8**	
		ドイツ語講読(文学)	2									
		ドイツ語学・文学特殊講読	2									
	専門演習(言語・文学)	2	4	4*								
	II 思想・芸術	ドイツ文化史概論 I	2					2				
		ドイツ文化史概論 II	2					2				
		ドイツの思想 I	2									
		ドイツの思想 II	2									
		ドイツの音楽 I	2									
		ドイツの音楽 II	2									
		ドイツの美術 I	2									
		ドイツの美術 II	2						8			8
		ドイツの演劇 I	2			24						24
		ドイツの演劇 II	2									
		ドイツ思想・芸術各論 I	2									
ドイツ思想・芸術各論 II		2										
ドイツ思想・芸術特殊講義	2											
ドイツ語講読(思想)	2					8**			8**			
ドイツ語講読(芸術)	2						8			8**		
ドイツ思想・芸術特殊講読	2											
専門演習(思想・芸術)	2						4	4*				
III 歴史・社会	ドイツ史概論 I	2								2		
	ドイツ史概論 II	2								2		
	ドイツの歴史 I	2										
	ドイツの歴史 II	2										
	ドイツの社会・事情 I	2										
	ドイツの社会・事情 II	2										
	ドイツの地誌・民俗 I	2										
	ドイツの地誌・民俗 II	2										
	ドイツの政治・対外関係 I	2									8	
	ドイツの政治・対外関係 II	2										
ドイツの経済 I	2											
ドイツの経済 II	2											
ドイツの法律 I	2											
ドイツの法律 II	2											
ドイツ史・社会各論 I	2											
ドイツ史・社会各論 II	2											
ドイツ史・社会特殊講義	2											
ドイツ語講読(歴史)	2									8**		
ドイツ語講読(社会)	2									8**		
ドイツ史・社会特殊講読	2											
専門演習(歴史・社会)	2									4	4*	
総合講座			2									
卒業論文			8									
外国語学部共通科目(別表 I-5)												
全学共通授業科目(別表 IV)	全学総合科目	カテゴリ I		4			4			4		
		カテゴリ II			8			8			8	
		カテゴリ III			4			4			4	
		カテゴリ IV				4***			4***			4***
		カテゴリ V			4			4			4	
外国語科目	英語以外の外国語科目 古典語科目											
卒業に必要な単位数合計				52	48	28	56	44	28	56	44	28
備考				128			128			128		

- 備考
- 主として履修する1部門より、「演習」4単位必修、他に「概論」4単位(II類、III類では必修)、「各論」8単位、「ドイツ語講読」8単位を
選択必修として履修する。各類とも他の部門より「ドイツ語講読」8単位(**印)を選択必修として履修する。主専攻以外の「ドイツ語講読」に
換えて「専門演習」(*印)を上限4単位まで履修できる。
 - 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
 - ***全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
- 本表は、2005年度入学者から適用する。

ドイツ語学科科目特性表

科目群	部門	科目名	学期配当								既修条件	備考
			1	2	3	4	5	6	7	8		
学科基礎科目	ドイツ語	総合ドイツ語I	●	○	○	○	○	○	○	○		クラス指定
		総合ドイツ語II		●	○	○	○	○	○	○	総合ドイツ語I	クラス指定
		基礎ドイツ語I	●	○	○	○	○	○	○	○		クラス指定
		基礎ドイツ語II		●	○	○	○	○	○	○	基礎ドイツ語I	クラス指定
		ドイツ語LL I	●	○	○	○	○	○	○	○		クラス指定
		ドイツ語LL II		●	○	○	○	○	○	○		クラス指定
		総合ドイツ語III			●	○	○	○	○	○	総合ドイツ語II	受講指定
		総合ドイツ語IV				●	○	○	○	○	総合ドイツ語III	受講指定
		基礎ドイツ語III			●	○	○	○	○	○	基礎ドイツ語II	クラス指定
		基礎ドイツ語IV				●	○	○	○	○	基礎ドイツ語III	クラス指定
		ドイツ語圏入門I・II	●	●	○	○	○	○	○			
		基礎演習I・II			●	●	○	○	○	ドイツ語圏入門IまたはII*	受講指定	
全学共通授業科目	英語		○	○	○	○	○	○	○		全学共通授業科目のページを参照のこと	
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語V					●	○	○	○	総合ドイツ語IV	受講指定
		総合ドイツ語VI						●	○	○	総合ドイツ語V	受講指定
		上級ドイツ語(時事)					○	○	○	○	総合ドイツ語IV	重複履修可 定員制***
		上級ドイツ語(会話)					○	○	○	○	総合ドイツ語IV	重複履修可 定員制***
		上級ドイツ語(作文)					○	○	○	○	総合ドイツ語IV	重複履修可 定員制***
		上級ドイツ語特殊演習					○	○	○	○		重複履修可
		中世ドイツ語I					○	○	○	○		重複履修可
		中世ドイツ語II					○	○	○	○		重複履修可
		通訳特殊演習I					○	○	○	○		定員制
		通訳特殊演習II					○	○	○	○	通訳特殊演習I	定員制
CAI特殊演習					○	○	○	○				
学科専門科目	I言語・文学	ドイツ語学概論I・II	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツ文学概論I・II	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツ語学各論I・II			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
		ドイツ文学各論I・II			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
		ドイツ語学・文学特殊講義					○	○	○	○		重複履修可
		ドイツ語講読(語学)					○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**
		ドイツ語講読(文学)					○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**
		ドイツ語学・文学特殊講読					○	○	○	○		重複履修可
		専門演習(言語・文学)				●	●	○	○	ドイツ語圏入門I・II 基礎演習I・II	7・8学期生の専門演習は、上限4単位まで主として履修する部門「以外」の講読に換えて履修することができる。	

科目群	部門	科目名	学期配当								既修条件	備考
			1	2	3	4	5	6	7	8		
学 科 専 門 科 目	II 思 想 ・ 芸 術	ドイツ文化史概論I・II	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツの思想I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの音楽I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの美術I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの演劇I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツ思想・芸術各論I・II			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
		ドイツ思想・芸術特殊講義					○	○	○	○		重複履修可
		ドイツ語講読(思想)					○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**
		ドイツ語講読(芸術)					○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**
		ドイツ思想・芸術特殊講読					○	○	○	○		重複履修可
	専門演習(思想・芸術)					●	●	○	○	ドイツ語圏入門I・II 基礎演習I・II	7・8学期生の専門演習は、上限4単位まで主として履修する部門「以外」の講読に換えて履修することができる。	
	III 歴 史 ・ 社 会	ドイツ史概論I・II	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツの歴史I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの社会・事情I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの地誌・民俗I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの政治・対外関係I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの経済I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの法律I・II			○	○	○	○	○	○		
		ドイツ史・社会各論I・II			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
ドイツ史・社会特殊講義						○	○	○	○		重複履修可	
ドイツ語講読(歴史)						○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**	
ドイツ語講読(社会)					○	○	○	○	基礎ドイツ語IV	重複履修可**		
ドイツ史・社会特殊講読					○	○	○	○		重複履修可		
専門演習(歴史・社会)					●	●	○	○	ドイツ語圏入門I・II 基礎演習I・II	7・8学期生の専門演習は、上限4単位まで主として履修する部門「以外」の講読に換えて履修することができる。		
	総合講座	○	○	○	○	○	○	○	○			
	卒業論文								○			

備考:

- (1) 学期配当欄の○印は履修できる学期を、●は履修が望まれる学期を示します。
 - (2) 定員制の科目については「授業時間割表」で人数を確認してください。
 - (3) 備考欄に「重複履修可」と書かれていない科目は、2科目以上履修することができません。
- * 「ドイツ語圏入門I」または「II」が修得済であれば、「基礎演習I」を履修することができます。
- ** 5・6・7学期生は、それぞれの学期で、主として履修する1部門、および他の1部門から、それぞれ1コマまでしか履修できません。
ただし、前学期に登録して修得できなかった単位分は、次学期に上限を超えて登録できます。
- *** 原則として同一副題の科目は2科目まで履修できます。

ドイツ語学科授業科目（2005年度以降入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	1
	秋	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	1
	春	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	2
	秋	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	2
	春	ドイツ語LLⅠ	各担当教員		1	1	全	3
	秋	ドイツ語LLⅡ	各担当教員		1	1	全	3
	春	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員		1	2	全	4
	秋	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員		1	2	全	4
	春	基礎ドイツ語Ⅲ	各担当教員		1	2	全	5
	秋	基礎ドイツ語Ⅳ	各担当教員		1	2	全	5
09966	春	ドイツ語圏入門Ⅰ	青山 愛香	水3	2	1	全	6
09967	秋	ドイツ語圏入門Ⅱ	青山 愛香	水3	2	1	全	6
	春	基礎演習Ⅰ	各担当教員		2	2	全	7
	秋	基礎演習Ⅱ	各担当教員		2	2	全	7

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員		1	3	全	8
	秋	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員		1	3	全	8
13801	春	上級ドイツ語(時事)	Cl. ハーマン	木4	2	3		9
13802	秋	上級ドイツ語(時事)	Cl. ハーマン	木4	2	3		9
13799	春	上級ドイツ語(時事)	M. 鮎貝	月2	2	3		10
13800	秋	上級ドイツ語(時事)	M. 鮎貝	月2	2	3		10
13794	春	上級ドイツ語(会話)	Ch. W. シュパンゲ	木4	2	3		11
13885	秋	上級ドイツ語(会話)	Ch. W. シュパンゲ	木4	2	3		11
13789	春	上級ドイツ語(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		12
13791	秋	上級ドイツ語(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		12
13785	春	上級ドイツ語(会話)	R. メッツィング	月1	2	3		13
13787	秋	上級ドイツ語(会話)	R. メッツィング	月1	2	3		13
13783	春	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木1	2	3		14
13784	秋	上級ドイツ語(会話)	T. カーラー	木1	2	3		14
13792	春	上級ドイツ語(会話)	T. マイヤー	月4	2	3		15
13793	秋	上級ドイツ語(会話)	T. マイヤー	月2	2	3		15
13795	春	上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		16
13796	秋	上級ドイツ語(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		16
13803	春	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	火3	2	3		17
13804	秋	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	火3	2	3		17
13797	春	上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	金3	2	3		18
13798	秋	上級ドイツ語(作文)	T. マイヤー	金2	2	3		18
10031	春	中世ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	水2	2	3		19
10032	秋	中世ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	水2	2	3		19
11481	春	通訳特殊演習Ⅰ	矢羽々 崇	金3	2	3		20
11482	秋	通訳特殊演習Ⅱ	矢羽々 崇	金3	2	3		20

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09968	春	ドイツ語学概論Ⅰ	柿沼 義孝	金5	2	1		21
09969	秋	ドイツ語学概論Ⅱ	柿沼 義孝	金5	2	1		21
09970	春	ドイツ文学概論Ⅰ	工藤 達也	月5	2	1		22
09971	秋	ドイツ文学概論Ⅱ	工藤 達也	月5	2	1		22
11726	春	ドイツ語学各論Ⅰ	金井 満	木2	2	2		23
11727	秋	ドイツ語学各論Ⅱ	金井 満	木2	2	2		23
11728	春	ドイツ文学各論Ⅰ	小島 康男	木3	2	2		24
11729	秋	ドイツ文学各論Ⅱ	小島 康男	木3	2	2		24
10033	春	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	水2	2	3		25
10034	秋	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	水2	2	3		25
10037	春	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火5	2	3		26
10038	秋	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火5	2	3		26
10035	春	ドイツ語講読(語学)	木内 基実	月3	2	3		27
10036	秋	ドイツ語講読(語学)	木内 基実	月3	2	3		27
10040	春	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	火1	2	3		28
10039	秋	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	水2	2	3		28
10041	春	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10042	秋	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10045	春	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木2	2	3		30
10046	秋	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木2	2	3		30
10043	春	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	水2	2	3		31
10044	秋	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	水2	2	3		31

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09974	春	ドイツ文化史概論Ⅰ	山本 淳	木4	2	1		32
09975	秋	ドイツ文化史概論Ⅱ	山本 淳	木4	2	1		32
11734	春	ドイツの思想Ⅰ	船戸 満之	月2	2	2		33
11735	秋	ドイツの思想Ⅱ	船戸 満之	月2	2	2		33
11732	春	ドイツの音楽Ⅰ	木村 佐千子	木2	2	2		34
11733	秋	ドイツの音楽Ⅱ	木村 佐千子	木2	2	2		34
11736	春	ドイツの美術Ⅰ	青山 愛香	月4	2	2		35
11737	秋	ドイツの美術Ⅱ	青山 愛香	月4	2	2		35
11730	春	ドイツの演劇Ⅰ	大塚 直	火3	2	2		36
11731	秋	ドイツの演劇Ⅱ	大塚 直	火3	2	2		36
11738	春	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ	下川 浩	金2	2	3		37
11739	秋	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ	下川 浩	金2	2	3		37
10051	春	ドイツ語講読(思想)	山路 朝彦	火3	2	3		38
10049	秋	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		39
10050	春	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		39
10047	秋	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	月3	2	3		40
10048	春	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	月3	2	3		40
10053	秋	ドイツ語講読(思想)	前田 智	木1	2	3		41
10054	春	ドイツ語講読(思想)	前田 智	木1	2	3		41
10055	秋	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10056	春	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10057	秋	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	火4	2	3		43
10058	春	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	火4	2	3		43
10062	秋	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	木3	2	3		44
10063	春	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	木3	2	3		44
10059	秋	ドイツ語講読(芸術)	林部 圭一	月3	2	3		45
10060	春	ドイツ語講読(芸術)	林部 圭一	月3	2	3		45

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
09976	春	ドイツ史概論Ⅰ	黒田 多美子	火4	2	1		46
09977	秋	ドイツ史概論Ⅱ	黒田 多美子	火4	2	1		46
11740	春	ドイツの歴史Ⅰ	増谷 英樹	火3	2	2		47
11741	秋	ドイツの歴史Ⅱ	増谷 英樹	火3	2	2		47
11744	春	ドイツの社会・事情Ⅰ	H. H. ゲートケ	水2	2	2		48
11745	秋	ドイツの社会・事情Ⅱ	H. H. ゲートケ	水2	2	2		48
11746	春	ドイツの地誌・民俗Ⅰ	飯嶋 曜子	火3	2	2		49
11747	秋	ドイツの地誌・民俗Ⅱ	飯嶋 曜子	火3	2	2		49
11748	春	ドイツの政治・対外関係Ⅰ	古田 善文	火2	2	2		50
11749	秋	ドイツの政治・対外関係Ⅱ	古田 善文	火2	2	2		50
11750	春	ドイツの経済Ⅰ	大重 光太郎	木2	2	2		51
11751	秋	ドイツの経済Ⅱ	大重 光太郎	木2	2	2		51
11742	春	ドイツの法律Ⅰ	滝沢 誠	火2	2	2	法	52
11743	秋	ドイツの法律Ⅱ	宗田 貴行	木2	2	2	法	52
10068	春	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10069	秋	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10066	春	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10067	秋	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10064	春	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10065	秋	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10074	春	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10075	秋	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10076	春	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	木3	2	3		57
10077	秋	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	木3	2	3		57
10070	春	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	金3	2	3		58
10071	秋	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	金3	2	3		58
10072	春	ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	木3	2	3		59
10073	秋	ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	木3	2	3		59
08466	通年	卒業論文	矢羽々 崇	水3	8	4		60

学則別表(2003・2004年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語 I a	1	6			6			6		
		ドイツ語 I b	1	6			6			6		
		ドイツ語 II a	1	5			5			5		
		ドイツ語 II b	1	5			5			5		
		ドイツ語圏入門a	2	2			2			2		
		ドイツ語圏入門b	2	2			2			2		
		基礎演習a	2	2			2			2		
		基礎演習b	2	2			2			2		
全学共通授業科目	英語		10		4	10		4	10		4	
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語 III a	1	2			2			2		
		総合ドイツ語 III b	1	2			2			2		
		ドイツ語 III (会話)	2		4			4			4	
		ドイツ語 III (作文)	2									
		上級ドイツ語 (会話)	2									
		上級ドイツ語 (作文)	2									
		上級ドイツ語特殊演習	2									
		中世ドイツ語 I	2									
		中世ドイツ語 II	2									
		通訳特殊演習 I	2									
		通訳特殊演習 II	2									
		CAI特殊演習	2									
		学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論a	2							
ドイツ語学概論b	2				4							
ドイツ文学概論a	2											
ドイツ文学概論b	2											
ドイツ語学各論a	2											
ドイツ語学各論b	2				8							
ドイツ文学各論a	2											
ドイツ文学各論b	2											
ドイツ語学・文学特殊講義	2											
ドイツ語講読(語学)	2					8		8**			8**	
ドイツ語講読(文学)	2											
ドイツ語学・文学特殊講読	2											
専門演習(言語・文学)a	2		2	2*								
専門演習(言語・文学)b	2		2	2*								
II 思想・芸術	ドイツ文化史概論a		2					2				
	ドイツ文化史概論b		2					2				
	ドイツの思想a		2									
	ドイツの思想b		2									
	ドイツの音楽a		2									
	ドイツの音楽b		2									
	ドイツの美術a		2						8			
	ドイツの美術b		2									
	ドイツの演劇a		2			24				24		
	ドイツの演劇b		2								24	
	ドイツ思想・芸術各論a	2										
	ドイツ思想・芸術各論b	2										
ドイツ思想・芸術特殊講義	2											
ドイツ語講読(思想)	2		8**			8			8**			
ドイツ語講読(芸術)	2											
ドイツ思想・芸術特殊講読	2											
専門演習(思想・芸術)a	2					2	2*					
専門演習(思想・芸術)b	2					2	2*					
III 歴史・社会	ドイツ史概論a	2								2		
	ドイツ史概論b	2								2		
	ドイツの歴史a	2										
	ドイツの歴史b	2										
	ドイツの社会・事情a	2										
	ドイツの社会・事情b	2										
	ドイツの地誌・民俗a	2										
	ドイツの地誌・民俗b	2										
	ドイツの政治・対外関係a	2								8		
	ドイツの政治・対外関係b	2										
	ドイツの経済a	2										
	ドイツの経済b	2										
	ドイツの法律a	2										
	ドイツの法律b	2										
	ドイツ史・社会各論a	2										
	ドイツ史・社会各論b	2										
	ドイツ史・社会特殊講	2										
	ドイツ語講読(歴史)	2		8**			8**			8		
	ドイツ語講読(社会)	2										
ドイツ史・社会特殊講読	2											
専門演習(歴史・社会)a	2								2			
専門演習(歴史・社会)b	2								2			
総合講座	2											
卒業論文	8											
外国語学部共通科目(別表 I-5)												
科目(別表 I-5)	全学共通科目		4			4			4			
	カテゴリー I			8			8			8		
	カテゴリー II			4			4			4		
	カテゴリー III				4			4				
	カテゴリー IV									4		
カテゴリー V												
英語以外の外国語科目												
古典語科目												
卒業に必要な単位数合計				52	48	28	56	44	28	56	44	28
				128			128			128		

備考

- 主として履修する1部門より、「演習」4単位必修、他に「概論」4単位(II類、III類では必修)、「各論」8単位、「講読」8単位を選択必修として履修する。各類とも他の部門より「ドイツ語講読」8単位(**印)を選択必修として履修する。主攻以外のドイツ語講読に換えて専門演習(*印)を履修できる。
- 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
- (3)**全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。

○本表は、2003年度入学者から適用する。

ドイツ語学科

〈ドイツ語学科科目特性表〉

科目群	部門	科目名	学期配当								既修条件	備考	
			1	2	3	4	5	6	7	8			
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰa・b(総合)	●	●	○	○	○	○	○	○		クラス指定	
		ドイツ語Ⅰa・b(基礎)	●	●	○	○	○	○	○	○		クラス指定	
		ドイツ語Ⅰa・b(LL)	●	●	○	○	○	○	○	○		クラス指定	
		ドイツ語Ⅱa・b(総合)			●	●	○	○	○	○	○	ドイツ語Ⅰa・b(総合) [※]	受講指定
		ドイツ語Ⅱa・b(応用)			●	●	○	○	○	○	○	ドイツ語Ⅰa・b(基礎) [※]	受講指定
		ドイツ語圏入門a・b	●	●	○	○	○	○	○	○	○		
		基礎演習a・b			●	●	○	○	○	○	○	ドイツ語圏入門a・b	受講指定
全学共通授業科目	英語		○	○	○	○	○	○	○	○		全学共通授業科目の「英語」を参照のこと	
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語Ⅲa・b					●	●	○	○	ドイツ語Ⅱa・b(総合) [※]	受講指定	
		ドイツ語Ⅲ(会話)					○	○	○	○		重複履修可 定員制	
		ドイツ語Ⅲ(作文)					○	○	○	○		重複履修可 定員制	
		上級ドイツ語(会話)					○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること	
		上級ドイツ語(作文)					○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること	
		上級ドイツ語特殊演習					○	○	○	○		重複履修可	
		中世ドイツ語Ⅰ					○	○	○	○		重複履修可	
		中世ドイツ語Ⅱ					○	○	○	○		重複履修可	
		通訳特殊演習Ⅰ					○	○	○	○		定員制	
		通訳特殊演習Ⅱ					○	○	○	○	通訳特殊演習Ⅰ	定員制	
CAI特殊演習					○	○	○	○					
学科専門科目	I言語・文学	ドイツ語学概論a・b	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ドイツ文学概論a・b	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ドイツ語学各論a・b			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること	
		ドイツ文学各論a・b			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること	
		ドイツ語学・文学特殊講義					○	○	○	○		重複履修可	
		ドイツ語講読(語学)					○	○	○	○		重複履修可	
		ドイツ語講読(文学)					○	○	○	○		重複履修可	
		ドイツ語学・文学特殊講読					○	○	○	○		重複履修可	
専門演習a・b(言語・文学)					●	●	○	○	基礎演習a・b	7・8学期生の専門演習は、主として履修する部門以外の講読にかえて履修することができる			

注) ただし、「b」のみ修得した場合、次学期「a」を同時履修することによって、上位科目を履修することができる。

科目群	部門	科目名	学期配当								既修条件	備考
			1	2	3	4	5	6	7	8		
専 門 科 目	Ⅱ 思 想 ・ 芸 術	ドイツ文化史概論 a・b	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツの思想 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの音楽 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの美術 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの演劇 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツ思想・芸術各論 a・b			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
		ドイツ思想・芸術特殊講義					○	○	○	○		重複履修可
		ドイツ語講読(思想)					○	○	○	○		重複履修可
		ドイツ語講読(芸術)					○	○	○	○		重複履修可
		ドイツ思想・芸術特殊講読					○	○	○	○		重複履修可
	専門演習 a・b(思想・芸術)					●	●	○	○	基礎演習 a・b	7・8学期生の専門演習は、主として履修する部門以外の講読にかえて履修することができる	
	Ⅲ 歴 史 ・ 社 会	ドイツ史概論 a・b	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ドイツの歴史 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの社会・事情 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの地誌・民俗 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの政治・対外関係 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの経済 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツの法律 a・b			○	○	○	○	○	○		
		ドイツ史・社会各論 a・b			○	○	○	○	○	○		重複履修可 ただし担当教員が異なること
ドイツ史・社会特殊講義						○	○	○	○		重複履修可	
ドイツ語講読(歴史)						○	○	○	○		重複履修可	
ドイツ語講読(社会)					○	○	○	○		重複履修可		
ドイツ史・社会特殊講読					○	○	○	○		重複履修可		
専門演習 a・b(歴史・社会)					●	●	○	○	基礎演習 a・b	7・8学期生の専門演習は、主として履修する部門以外の講読にかえて履修することができる		
総合講座			○	○	○	○	○	○	○			
卒業論文								○				

注) ①学期配当欄の○印は履修できる学期を、●は履修すべき学期を示します。
 ②定員制の科目については「授業時間割表」で人数を確認してください。

ドイツ語学科授業科目 (2003/2004年度入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	ドイツ語 I a(総合)			1	1	全	1
	秋	ドイツ語 I b(総合)			1	1	全	1
	春	ドイツ語 I a(基礎)			1	1	全	2
	秋	ドイツ語 I b(基礎)			1	1	全	2
	春	ドイツ語 I a(LL)			1	1	全	3
	秋	ドイツ語 I b(LL)			1	1	全	3
	春	ドイツ語 II a(総合)			1	2	全	4
	秋	ドイツ語 II b(総合)			1	2	全	4
	春	ドイツ語 II a(応用)			1	2	全	5
	秋	ドイツ語 II b(応用)			1	2	全	5
00510	春	ドイツ語圏入門a	青山 愛香	水3	2	1	全	6
00511	秋	ドイツ語圏入門b	青山 愛香	水3	2	1	全	6
	春	基礎演習a			2	2	全	7
	秋	基礎演習b			2	2	全	7

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	総合ドイツ語Ⅲa	各担当教員		1	3	全	8
	秋	総合ドイツ語Ⅲb	各担当教員		1	3	全	8
10018	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパング	木4	2	3		11
10019	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパング	木4	2	3		11
10017	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		12
10137	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	2	3		12
10013	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	R. メッツィング	月1	2	3		13
10014	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	R. メッツィング	月1	2	3		13
10015	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. カーラー	木1	2	3		14
10016	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. カーラー	木1	2	3		14
10011	春	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	月4	2	3		15
10012	秋	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	月2	2	3		15
10021	春	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		16
10020	秋	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	2	3		16
10028	春	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. マイヤー	金3	2	3		18
10027	秋	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. マイヤー	金2	2	3		18
10023	春	上級ドイツ語(会話)	Cl. ハーマン	木4	2	3		9
10024	秋	上級ドイツ語(会話)	Cl. ハーマン	木4	2	3		9
10026	春	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	月2	2	3		10
10025	秋	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	月2	2	3		10
10029	春	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	火3	2	3		17
10030	秋	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	火3	2	3		17
10031	春	中世ドイツ語 I	I. アルブレヒト	水2	2	3		19
10032	秋	中世ドイツ語 II	I. アルブレヒト	水2	2	3		19
11481	春	通訳特殊演習 I	矢羽々 崇	金3	2	3		19
11482	秋	通訳特殊演習 II	矢羽々 崇	金3	2	3		19

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00681	春	ドイツ語学概論a	柿沼 義孝	金5	2	1		21
06751	秋	ドイツ語学概論b	柿沼 義孝	金5	2	1		21
06690	春	ドイツ文学概論a	工藤 達也	月5	2	1		22
06691	秋	ドイツ文学概論b	工藤 達也	月5	2	1		22
06604	春	ドイツ語学各論a	金井 満	木2	2	2		23
06605	秋	ドイツ語学各論b	金井 満	木2	2	2		23
08095	春	ドイツ文学各論a	小島 康男	木3	2	2		24
08096	秋	ドイツ文学各論b	小島 康男	木3	2	2		24
10033	春	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	水2	2	3		25
10034	秋	ドイツ語講読(語学)	A. リプスキ	水2	2	3		25
10037	春	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火5	2	3		26
10038	秋	ドイツ語講読(語学)	永岡 敦	火5	2	3		26
10035	春	ドイツ語講読(語学)	木内 基実	月3	2	3		27
10036	秋	ドイツ語講読(語学)	木内 基実	月3	2	3		27
10040	春	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	火1	2	3		28
10039	春	ドイツ語講読(文学)	山路 朝彦	水2	2	3		28
10041	春	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10042	秋	ドイツ語講読(文学)	酒井 府	水1	2	3		29
10045	春	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木2	2	3		30
10046	秋	ドイツ語講読(文学)	小島 康男	木2	2	3		30
10043	春	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	水2	2	3		31
10044	秋	ドイツ語講読(文学)	木内 基実	水2	2	3		31

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
06740	春	ドイツ文化史概論a	山本 淳	木4	2	1		32
06741	秋	ドイツ文化史概論b	山本 淳	木4	2	1		32
06679	春	ドイツの思想a	船戸 満之	月2	2	2		33
06643	秋	ドイツの思想b	船戸 満之	月2	2	2		33
06544	春	ドイツの音楽a	木村 佐千子	木2	2	2		34
06545	秋	ドイツの音楽b	木村 佐千子	木2	2	2		34
06709	春	ドイツの美術a	青山 愛香	月4	2	2		35
06710	秋	ドイツの美術b	青山 愛香	月4	2	2		35
06579	春	ドイツの演劇a	大塚 直	火3	2	2		36
06580	秋	ドイツの演劇b	大塚 直	火3	2	2		36
06626	春	ドイツ思想・芸術各論a	下川 浩	金2	2	2		37
06627	秋	ドイツ思想・芸術各論b	下川 浩	金2	2	2		37
10051	春	ドイツ語講読(思想)	山路 朝彦	火3	2	3		38
10049	春	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		39
10050	秋	ドイツ語講読(思想)	小島 康男	水2	2	3		39
10047	春	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	月3	2	3		40
10048	秋	ドイツ語講読(思想)	船戸 満之	月3	2	3		40
10053	春	ドイツ語講読(思想)	前田 智	木1	2	3		41
10054	秋	ドイツ語講読(思想)	前田 智	木1	2	3		41
10055	春	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10056	秋	ドイツ語講読(芸術)	K. O. バイスヴェンガー	火3	2	3		42
10057	春	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	火4	2	3		43
10058	秋	ドイツ語講読(芸術)	洲崎 恵三	火4	2	3		43
10062	春	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	木3	2	3		44
10063	秋	ドイツ語講読(芸術)	渡部 重美	木3	2	3		44
10059	春	ドイツ語講読(芸術)	林部 圭一	月3	2	3		45
10060	秋	ドイツ語講読(芸術)	林部 圭一	月3	2	3		45

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00610	春	ドイツ史概論a	黒田 多美子	火4	2	1		46
00611	秋	ドイツ史概論b	黒田 多美子	火4	2	1		46
06676	春	ドイツの歴史a	増谷 英樹	火3	2	2		47
06677	秋	ドイツの歴史b	増谷 英樹	火3	2	2		47
06577	春	ドイツの社会・事情a	H. H. ゲートケ	水2	2	2		48
06578	秋	ドイツの社会・事情b	H. H. ゲートケ	水2	2	2		48
06522	春	ドイツの地誌・民俗a	飯嶋 曜子	火3	2	2		49
06523	秋	ドイツの地誌・民俗b	飯嶋 曜子	火3	2	2		49
06528	春	ドイツの政治・対外関係a	古田 善文	火2	2	2		50
06529	秋	ドイツの政治・対外関係b	古田 善文	火2	2	2		50
06526	春	ドイツの経済a	大重 光太郎	木2	2	2		51
06527	秋	ドイツの経済b	大重 光太郎	木2	2	2		51
09693	春	ドイツの法律a	滝沢 誠	火2	2	2	法	52
09694	秋	ドイツの法律b	宗田 貴行	木2	2	2	法	52
10068	春	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10069	秋	ドイツ語講読(歴史)	A. ヴェルナー	金2	2	3		53
10066	春	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10067	秋	ドイツ語講読(歴史)	井村 行子	火3	2	3		54
10064	春	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10065	秋	ドイツ語講読(歴史)	増谷 英樹	水2	2	3		55
10074	春	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10075	秋	ドイツ語講読(社会)	I. アルブレヒト	火3	2	3		56
10076	春	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	木3	2	3		57
10077	秋	ドイツ語講読(社会)	古田 善文	木3	2	3		57
10070	春	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	金3	2	3		58
10071	秋	ドイツ語講読(社会)	辻本 勝好	金3	2	3		58
10072	春	ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	木3	2	3		59
10073	秋	ドイツ語講読(社会)	飯嶋 曜子	木3	2	3		59
08466	通年	卒業論文	矢羽々 崇	水3	8	4		60

学則別表(2001年度・2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			III類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	2	12			12			12		
		ドイツ語Ⅱ	2	10			10			10		
	第二外国語	英語	2	10			10			10		
	ドイツ語圏入門		4	4			4			4		
	基礎演習		4	4			4			4		
学科共通科目	ドイツ語	総合ドイツ語Ⅲ	2	4			4			4		
		ドイツ語Ⅲ(会話)	4		4			4			4	
		ドイツ語Ⅲ(作文)	4									
		上級ドイツ語(会話)	4									
		上級ドイツ語(作文)	4									
		上級ドイツ語特殊演習*)	2									
		中世ドイツ語	4									
		通訳特殊演習Ⅰ*)	2									
		通訳特殊演習Ⅱ*)	2									
		CAI特殊演習*)	2									
学科専門科目	I 言語・文学	ドイツ語学概論	4		4							
		ドイツ文学概論	4									
		ドイツ語学各論	4		8							
		ドイツ文学各論	4									
		ドイツ語学・文学特殊講義*)	2									
		ドイツ語講読(語学)Ⅰ	4		4			4*			4*	
		ドイツ語講読(文学)Ⅰ	4									
		ドイツ語講読(語学)Ⅱ	4		4			4**			4**	
		ドイツ語講読(文学)Ⅱ	4									
		ドイツ語学・文学特殊講読*)	2									
	専門演習(言語・文学)	4	4	4**								
	II 思想・芸術	ドイツ文化史概論	4				4					
		ドイツの思想	4									
		ドイツの音楽	4			24						24
		ドイツの美術	4					8				
		ドイツの演劇	4									
		ドイツ思想・芸術各論	4									
		ドイツ思想・芸術特殊講義*)	2									
		ドイツ語講読(思想)Ⅰ	4		4*			4			4*	
		ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	4									
		ドイツ語講読(思想)Ⅱ	4		4**			4			4**	
	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	4										
	ドイツ思想・芸術特殊講読*)	2										
	専門演習(思想・芸術)	4				4	4**					
	III 歴史・社会	ドイツ史概論	4							4		
		ドイツの歴史	4									
		ドイツの社会・事情	4									
		ドイツの地誌・民俗	4									
		ドイツの政治・対外関係	4								8	
		ドイツの経済	4									
ドイツの法律		4										
ドイツ史・社会各論		4										
ドイツ史・社会特殊講義*)		2										
ドイツ語講読(歴史)Ⅰ		4		4*			4*			4		
ドイツ語講読(社会)Ⅰ		4										
ドイツ語講読(歴史)Ⅱ		4		4**			4**			4		
ドイツ語講読(社会)Ⅱ		4										
ドイツ史・社会特殊講読*)		2										
専門演習(歴史・社会)	4								4	4**		
卒業論文	8											
外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)				28			28			28		
卒業に必要な単位数合計				76	32	24	80	28	24	80	28	24
				132			132			132		

備考

- (1) *を付した科目は半期完結とする。
 - (2) 各類とも、他の部門より「講読Ⅰ」4単位(*印)および「講読Ⅱ」4単位(**印)を選択必修として履修する。
ただし、他の部門の「講読Ⅱ」に代えて専門演習(**印)を履修できる。
 - (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
なお、教職課程科目の単位の代用については別に定める。
- 本表は、2001年度入学者から適用する。

ドイツ語学科授業科目（2002年度以前入学生用）

目次

学科共通科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員		2	3	全	8
06601	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	Ch. W. シュパンク	木4	4	3		11
00337	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	H. J. トロル	金1	4	3		12
00336	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	R. メッツィング	月1	4	3		13
06674	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. カーラー	木1	4	3		14
00357	通年	ドイツ語Ⅲ(会話)	T. マイヤー	月2/月4	4	3		15
00656	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	H. J. トロル	月1	4	3		16
06628	通年	ドイツ語Ⅲ(作文)	T. マイヤー	金2/金3	4	3		18
00540	通年	上級ドイツ語(会話)	Cl. ハーマン	木4	4	3		9
00358	通年	上級ドイツ語(会話)	M. 鮎貝	月2	4	3		10
06670	通年	上級ドイツ語(作文)	T. カーラー	火3	4	3		17
00478	通年	中世ドイツ語	I. アルブレヒト	水2	4	3		19
11481	春	通訳特殊演習Ⅰ	矢羽々 崇	金3	2	3		20
11482	秋	通訳特殊演習Ⅱ	矢羽々 崇	金3	2	3		20

学科専門科目

「Ⅰ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07520	通年	ドイツ語学概論	柿沼 義孝	金5	4	1		21
07527	通年	ドイツ文学概論	工藤 達也	月5	4	1		22
07518	通年	ドイツ語学各論	金井 満	木2	4	2		23
00643	通年	ドイツ文学各論	小島 康男	木3	4	2		24
00338	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	A. リプスキ	水2	4	3		25
06603	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	永岡 敦	火5	4	3		26
06620	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅰ	木内 基実	月3	4	3		27
00644	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	山路 朝彦	火1/水2	4	3		28
07627	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	酒井 府	水1	4	3		29
07622	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	小島 康男	木2	4	3		30
07629	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅰ	木内 基実	水2	4	3		31
07628	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	A. リプスキ	水2	4	3		25
07621	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	永岡 敦	火5	4	3		26
07637	通年	ドイツ語講読(語学)Ⅱ	木内 基実	月3	4	3		27
07623	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	山路 朝彦	火1/水2	4	3		28
06589	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	酒井 府	水1	4	3		29
06606	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	小島 康男	木2	4	3		30
06602	通年	ドイツ語講読(文学)Ⅱ	木内 基実	水2	4	3		31

「Ⅱ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07525	通年	ドイツ文化史概論	山本 淳	木4	4	1		32
07519	通年	ドイツの思想	船戸 満之	月2	4	2		33
07516	通年	ドイツの音楽	木村 佐千子	木2	4	2		34
00359	通年	ドイツの美術	青山 愛香	月4	4	2		35
07522	通年	ドイツの演劇	大塚 直	火3	4	2		36
07526	通年	ドイツ思想・芸術各論	下川 浩	金2	4	2		37
06645	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	小島 康男	水2	4	3		38
06553	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	船戸 満之	月3	4	3		40
06752	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅰ	前田 智	木1	4	3		41
07639	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	K. O. バイスヴェンガー	火3	4	3		42
07638	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	洲崎 恵三	火4	4	3		43
07634	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	渡部 重美	木3	4	3		44
07620	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ	林部 圭一	月3	4	3		45
07625	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	小島 康男	水2	4	3		38
07636	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	船戸 満之	月3	4	3		40
07640	通年	ドイツ語講読(思想)Ⅱ	前田 智	木1	4	3		41
06717	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	K. O. バイスヴェンガー	火3	4	3		42
06608	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	洲崎 恵三	火4	4	3		43
06675	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	渡部 重美	木3	4	3		44
06552	通年	ドイツ語講読(芸術)Ⅱ	林部 圭一	月3	4	3		45

「Ⅲ類」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07524	通年	ドイツ史概論	黒田 多美子	火4	4	1		46
07529	通年	ドイツの歴史	増谷 英樹	火3	4	2		47
07521	通年	ドイツの社会・事情	H. H. ゲートケ	水2	4	2		48
07523	通年	ドイツの地誌・民俗	飯嶋 曜子	火3	4	2		49
07515	通年	ドイツの政治・対外関係	古田 善文	火2	4	2		50
07514	通年	ドイツの経済	大重 光太郎	木2	4	2		51
00422	通年	ドイツの法律	滝沢 誠／宗田 貴行	火2／木2	4	2	法	52
06638	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	A. ヴェルナー	金2	4	3		53
00429	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	井村 行子	火3	4	3		54
06678	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅰ	増谷 英樹	水2	4	3		55
07624	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	I. アルブレヒト	火3	4	3		56
07630	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	古田 善文	木3	4	3		57
07631	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	辻本 勝好	金3	4	3		58
06607	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅰ	飯嶋 曜子	木3	4	3		59
07626	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	A. ヴェルナー	金2	4	3		53
07633	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	井村 行子	火3	4	3		54
07641	通年	ドイツ語講読(歴史)Ⅱ	増谷 英樹	水2	4	3		55
06633	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	I. アルブレヒト	火3	4	3		56
06687	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	古田 善文	木3	4	3		57
06521	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	辻本 勝好	金3	4	3		58
07632	通年	ドイツ語講読(社会)Ⅱ	飯嶋 曜子	木3	4	3		59
08466	通年	卒業論文	矢羽々 崇	水3	8	4		60

英語授業科目（2002年度以前入学生用）

目次

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
13669	通年	英語〔上級〕	B. K. カートル	月3	2	1	全	61
13670	通年	英語〔上級〕	C. カーペンター	木3	2	1	全	62
13671	通年	英語〔上級〕	J. スティベンソン	水3	2	1	全	63
13672	通年	英語〔上級〕	M. フッド	土1	2	1	全	64
13674	通年	英語〔上級〕	M. フッド	土2	2	1	全	65
13676	通年	英語〔上級〕	M. ミルティアダス	月3	2	1	全	66
13665	通年	英語〔上級〕	笠原 誠也	土1	2	1	全	67
13673	通年	英語〔上級〕	笠原 誠也	土2	2	1	全	68
13675	通年	英語〔上級〕	菊池 武	水3	2	1	全	69
13666	通年	英語〔上級〕	石月 正伸	木4	2	1	全	70
13667	通年	英語〔上級〕	福田 哲哉	木3	2	1	全	71
13668	通年	英語〔上級〕	堀 いづみ	木2	2	1	全	72
13823	後期	英語〔上級〕	高木 亜希子	水3	2	1	全	73
13677	前期	英語〔上級〕	高木 亜希子	水3	2	1	全	73

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語 I 総合ドイツ語 I a (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト付属の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*総合ドイツ語 I では、2007 年度より新教科書を導入します。それにもない、2007 年度秋学期からは、再履修クラスでも新教科書を用います。</p>		<p><i>Schritte international 1</i> (全 7 課) を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-2 週目 Lektion 1 3-4 週目 Lektion 2 4-5 週目 Lektion 3 6-7 週目 Lektion 4 7-8 週目 Lektion 5 9-10 週目 Lektion 6 10-11 週目 Lektion 7 12 週目 復習と口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 1</i> および別冊の単語集を初回の授業までに購入して持参してください。(既習クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口述試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 I の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 II へ進めません。</p>	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語 II 総合ドイツ語 I b (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという 4 つの能力をバランスよく向上させ、3 年間の総合ドイツ語履修により、Goethe-Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト付属の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Schritte international 2</i> (全 7 課) を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-2 週目 Lektion 8 3-4 週目 Lektion 9 4-5 週目 Lektion 10 6-7 週目 Lektion 11 7-8 週目 Lektion 12 9-10 週目 Lektion 13 10-11 週目 Lektion 14 12 週目 復習と口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Schritte international 2</i> および別冊の単語集を初回の授業までに購入して持参してください。(既習クラスは別教材です。)</p>		<p>出席状況、授業中に行う小テスト、学期末の筆記試験・口述試験の結果を総合して評価します。総合ドイツ語 II の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 III へ進めません。</p>	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅰa(基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語運用能力の土台となる文法を中心に、ドイツ語の基礎を学んでいきます。はじめて学習する言語なので、2学期間で発音から初級文法を習得します。</p> <p>ドイツ語を身につけるためには、授業時間中だけでなく、予習・復習をしっかりとすることが大切です。継続的に積み重ねて学ぶことを意識してください。</p> <p>なお、辞書については、授業中に指示します。</p> <p>★一学期の間に7回以上欠席すると、評価の対象となりません(F評価)ので、注意してください。</p> <p>★既習クラス(1組)は、ネイティブ教員による別メニューの授業が行われます。第1回授業時に教科書などの指示を受けてください。統一試験は実施しません。</p>		春学期中に第8課まで終える予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		2課ごとの小テストと期末統一試験、出席から判断(配点については授業時間中に案内します)	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅰb(基礎)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の記述を参照。</p> <p>なお、秋学期の授業開始後、早い時期に「不規則動詞の三基本形(不定詞・過去基本形・過去分詞)」に関するテストを実施します。成績に反映されますので、夏休み中にしっかり覚えてきてください。</p>		秋学期中に第16課まで終える予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法』白水社		三基本形テスト、2課ごとの小テストと期末統一試験、出席から判断(配点については授業時間中に案内します)	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語LL I ドイツ語I a (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1. 春学期 Lektion1～Lektion5	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		期末統一試験と出席、平常点。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語LL II ドイツ語I b (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。</p> <p>ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。</p> <p>練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。</p> <p>また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。</p> <p>練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。</p>		1. 秋学期 Lektion6～Lektion10	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント配布。今学期は Deutsche Phonetik für japanische Studenten という教材を用います。授業中に教材購入の指示をします。</p>		期末統一試験と出席、平常点。	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅱa (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2名のネイティブ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 1</i> の Lektion 8-10 および <i>Stufen international 2</i> の Lektion 11 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-3 週目 Lektion 8 4-6 週目 Lektion 9 7-9 週目 Lektion 10 10-12 週目 Lektion 11、口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Stufen international 1, 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD。 <i>Stufen international 2</i> も4月の教科書販売の時期に購入しておいてください。		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口述試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 III の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 IV へ進めません。	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅱb (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週 2 コマ）と日本人教員（週 1 コマ）（2名のネイティブ教員が担当するクラスもあり）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト準拠の CD を授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 2</i> の Lektion 12-14 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-4 週目 Lektion 12 5-8 週目 Lektion 13 9-12 週目 Lektion 14、口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Stufen international 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口述試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語 IV の単位が取れないと、次の総合ドイツ語 V へ進めません。	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語 III ドイツ語 II a (応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>4月 第1週: 統一復習テスト Übung macht den Meister の 17・18 課</p> <p>5月ー 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 1～Lektion 6</p> <p>2 課ごとに小テスト</p> <p>春学期学年末 統一試験</p> <p>夏休み 宿題!</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ウズラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2 課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 03年度以降	基礎ドイツ語 IV ドイツ語 II b (応用)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次での基礎をふまえ、2年次では残りの文法項目を最初に終え、その後に、中級ドイツ語へのステップアップを目指します。</p> <p>中心となるのは読解力と作文力の養成であり、そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。</p> <p>授業時に学ぶだけではなく、予習・復習をしっかりとしてください。また、授業時には教科書、辞書、1年次の文法教科書を必ず持参してください。</p> <p>なお、春学期末試験の試験結果次第では、一部クラス替えを行います。</p> <p>既習クラスはネイティブ教員による作文を中心とした授業を行います。(統一試験は行いません。)</p>		<p>秋学期 『ドイツ語読みかた教室』 Lektion 7～Lektion 12</p> <p>教科書終了後に各クラスごとに練習</p> <p>9月第一週に実力テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷弘道, ウズラ・大谷『ドイツ語読みかた教室 中級表現練習読本』三修社。 1年次の文法教科書		2 課ごとの小テストと期末統一試験, 出席から判断します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語圏入門 I ドイツ語圏入門 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、またそれを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。 2) 同じく 1 学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」と平衡して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像（見取り図）を把握し、将来の先行・テーマを選ぶてがかりをつかむ。 3) レポートの書き方、参考文献と自分の意見の区別の仕方、参考文献の挙げ方や引用方法等を学ぶ。 <p>講義概要</p> <p>各担当教員が言語、文学、社会、歴史、政治、芸術などのテーマについて基本的な講義をします。その他、ドイツ語をつかった将来について、先輩の体験談を聞く回なども設けます。</p>		<p>第一回の授業で、本年度の講義計画表を配布します。授業内容・担当者の紹介を行い、出席・課題図書・レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。</p> <p>5月中旬ㄨ切のレポートを課します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
原則として毎回担当教員が授業レジュメ（プリント）を配布します。また、第一回のガイダンス時に基本図書および参考文献一覧を配布します。		出席状況、レポート、および学期末の筆記試験の結果に基づいて評価します。評価は第一回の授業時に説明します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語圏入門 II ドイツ語圏入門 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様です。		<p>10月中旬ㄨ切のレポートを提出します。</p> <p>なお秋学期のみ受講する学生には、第一回の授業で履修上の注意事項を記したプリントを配布しますので、必ず出席してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同様、毎回担当教員がレジュメを配布します。		春学期同様、出席状況、レポートおよび学期末の筆記試験の結果に基づいて評価します。	

05年度以降 03年度以降	基礎演習 I 基礎演習 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」では、おもにドイツ語圏に関する基礎知識の修得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしていました。2年次の「基礎演習」では、自ら情報を収集し、それを口頭で発表したり、文書（レポート）としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。</p> <p>春学期では、おもにグループでの共同研究や全体やグループでの討論、ディベートなどを通して、情報検索、口頭発表の作法、討議のしかたなどの基礎を身につけます。</p> <p>3回のグループ研究では「ドイツの都市研究」は必修共通テーマで、残りの2回は「環境問題」、「大学をめぐる」、「グリム童話」、「第2次世界大戦」などから教員と学生の相談のうえでテーマを決定します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 自己紹介（プレゼンテーションの第1歩） ドイツの都市研究の準備 3. グループ研究① ドイツの都市研究 1 4. グループ研究① ドイツの都市研究 2 5. グループ研究① ドイツの都市研究 3 6. グループ研究② テーマ 1 7. グループ研究② 8. グループ研究② 9. グループ研究③ テーマ 2 10. グループ研究③ 11. グループ研究③ 12. まとめ 秋学期個人自由研究分担最終決定 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。詳しくは第1回授業時に。	

05年度以降 03年度以降	基礎演習 II 基礎演習 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期のうちに決定していた分担にもとづいて、秋学期は個人による自由研究発表を行います。</p> <p>発表はおおよそ20分、質疑応答に10分を予定しています。発表者は、発表の遅くとも2週間前までに担当教員と相談しながら発表内容を絞り込み、自分なりの問題提起→それに対する解答となるように発表をまとめ、ハンドアウトを作成してください。</p> <p>聞き手も漫然と聞くのではなく、発表者と問題意識を共有しつつ、質疑応答と議論に積極的に参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期レポート返却、講評、後期分担の再確認 2. 以下、個人自由研究発表、質疑応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指示します。		出席（出欠・遅刻）、授業参加（討論などへの参加）、口頭発表、レポートから総合的に判断します。	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語V 総合ドイツ語IIIa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もドイツ語で書かれており、授業はすべてドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 2</i> の Lektion 15-17 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-4 週目 Lektion 15 5-8 週目 Lektion 16 9-12 週目 Lektion 17、口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Stufen international 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口述試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Vの単位が取れないと、次の総合ドイツ語VIへ進めません。	

05年度以降 03年度以降	総合ドイツ語VI 総合ドイツ語III b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員が授業を担当し、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、3年間の総合ドイツ語履修により、Goethe- Institut 主催のドイツ語基礎統一試験 ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業はドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題をこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<p><i>Stufen international 2</i> の Lektion 18-20 を学習します。おおむね以下のような進度を予定しています。</p> <p>1-4 週目 Lektion 18 5-8 週目 Lektion 19 9-12 週目 Lektion 20、口述試験の準備</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Stufen international 2</i> および別冊の練習問題集、単語集、CD		出席状況、授業中に行う小テスト、および学期末口述試験の結果を総合して評価します。	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語（時事） 上級ドイツ語（会話）	担当者	ハーマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、最近のドイツの短編映画をいくつか見ます。</p> <p>そして、それぞれのストーリーやキャラクター、人間関係について、パートナー同士、グループ、クラスディスカッションなどで述べたり、話し合ったりします。それぞれの映画に関して、話の要約、批評、作文（たとえば、あるキャラクターへの手紙、あるキャラクターが書いたであろう日記、異なった終わり方を考えてみる、映画の後に起こるであろうことの予想などの作文）を書きます。</p>		<p>一授業に一作ずつの短編映画を見ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業への参加、ディスカッションへの参加具合、グループでの活動内容についての口頭での発表、要約、批評、作文の結果。	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語（時事） 上級ドイツ語（会話）	担当者	ハーマン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、最近のドイツの短編映画をいくつか見ます。</p> <p>そして、それぞれのストーリーやキャラクター、人間関係について、パートナー同士、グループ、クラスディスカッションなどで述べたり、話し合ったりします。それぞれの映画に関して、話の要約、批評、作文（たとえば、あるキャラクターへの手紙、あるキャラクターが書いたであろう日記、異なった終わり方を考えてみる、映画の後に起こるであろうことの予想などの作文）を書きます。</p>		<p>一授業に一作ずつの短編映画を見ます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウト		授業への参加、ディスカッションへの参加具合、グループでの活動内容についての口頭での発表、要約、批評、作文の結果。	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語(時事) 上級ドイツ語(会話)	担当者	M. 鮎貝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel dieser Unterrichtsstunden ist, die Teilnehmer mit der gegenwärtigen aktuellen deutschen Sprache vertraut zu machen. Dabei steht von den vier Fähigkeiten beim Spracherwerb (hören, sprechen, lesen schreiben) das SPRECHEN im Vordergrund. Wie und worüber sprechen wir? Wollen wir etwas mitteilen, über etwas diskutieren, unsere Meinungen austauschen oder gar andere kakkp „überreden“?</p> <p>Die Themenauswahl basiert auf kurzen Artikeln aus Textbuch, deutschen Zeitungen und Zeitschriften und kaun - jenach Interesse der Studeuteu - erweitert werden.</p>		Der genaue Semester plan wird in der 1. Stunde mit Einführung zur Ver fügung gestellt	
テキスト、参考文献		評価方法	
Angela Braun, Masato Izumi u.a. <i>kennzeichen.de</i> Sanshusha. deutsche Zeitungen usw. als Kopien		Regelmäßige Teilnahme. Quizz Auizz während des Semesters. Kurzer Abschlußtest.	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語(時事) 上級ドイツ語(会話)	担当者	M. 鮎貝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Dieser Kurs ist die Fortsetzung des Sommersemesters)</p> <p>Im Wintersemester wird selbstständig jeder Teilnehmer ein Kurzreferat mit dem Thema seiner Wahl übernehmen.</p>		Der genaue Semesterplan wird in der 1. Stunde mit Einführung zur Verfügung gestellt.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Angela Braun, Masato Izumi u.a. <i>kennzeichen.de</i> Sanshusha Kopien von Zeitungen u. a.		Regelmäßige Teilnahme, Refetate, Quizz während des Semesters. Kurzer Abschlußtest.	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語 III (会話)	担当者	Christian W. Spang (シュパング・クリスティアン)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Je nach den Wünschen der Teilnehmer bestehen ZWEI OPTIONEN für die Gestaltung des Kurses:</p> <p>A Allgemeine Konversations-Übungen, die sich vor allem an den Bedürfnissen der StudentInnen des 3. Studienjahres (also den Sôgô III TeilnehmerInnen!) orientieren.</p> <p>B Besprechung von politischen bzw. historischen Texten, vor allem für die StudentInnen, die als Fachgebiet (学科専門科目) 「III 歴史・社会」 gewählt haben.</p> <p>WICHTIGER HINWEIS: Die Teilnehmer der ersten Stunde (!) entscheiden, ob der Kursschwerpunkt auf einfachen „Kaiwa“-Übungen (A) liegt, oder ob wir uns mehr inhaltlich mit politischen und historischen Themen (A) beschäftigen werden. => <i>It's up to you!</i></p> <p>Die Verbesserung der sprachlichen Ausdrucksmöglichkeiten ist auf jeden Fall das eigentliche Ziel des Unterrichts. Wir werden uns daher auch mit Wortschatzfragen beschäftigen. Dabei kommen die folgenden Bücher zum Einsatz:</p> <p>⇒ RICHARD SCHMITT, Weg mit den typischen Fehlern!, Teil 1 und Teil 2, München: Verlag für Deutsch, ²1999.</p> <p>⇒ PAUL STOCKER, Wort für Wort. New Advanced German Vocabulary, London: Hodder Arnold, ⁴2006.</p>		<p>Die erste Stunde dient dem gegenseitigen kennen lernen und der Besprechung des Kurses.</p> <p>Wenn sich die Mehrheit für die Option „A“ entscheidet, werden wir verschiedene Frage-Antwort Übungen, (Gruppen-) Referate und als Semesterabschluss einen „Interview-Test“ abhalten.</p> <p>Ein Thema für einen politisch-historisch orientierten Unterricht (B) wäre es, sich mit den Fragen zu beschäftigen, die neuerdings diejenigen beantworten sollen, die die deutsche Staatsbürgerschaft anstreben. Dieser Fragenkomplex deckt die folgenden Themenbereiche ab: 1.) Deutschland & die Deutschen, 2.) Deutsche Geschichte, 3.) Verfassung & Grundrechte, 4.) Wahlen & Parteien, 5.) Regierung & Parlament, 6.) Bundes-, Rechts- & Sozialstaat, 7.) Deutschland & Europa, 8.) Kultur & Wissenschaft, 9.) Nationalsymbole. => <i>Bitte beachten Sie, dass man nur über etwas sprechen kann (会話), das man gelesen (& verstanden) hat!</i></p> <p>Wir werden uns neben den normalen Unterrichtsstunden voraussichtlich einmal im Computerraum treffen, um die Möglichkeiten des (deutschen!) Internets zu ergründen!</p> <p>Die regelmäßige Teilnahme am Kurs ist Voraussetzung dafür, dass es zu einem Unterrichtsgespräch (会話!) kommen kann!</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die nötigen Unterlagen werden – unabhängig von der Unterrichtsgestaltung (Option „A“ oder „B“) vom Dozenten verteilt.		<p>1.) Anwesenheit (出席)</p> <p>2.) Kurzreferate (発表)</p> <p>3.) Eventuell die Vorbereitung von Texten - inklusive Vokabellisten (宿題)</p>	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語 III (会話)	担当者	Christian W. Spang (シュパング・クリスティアン)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das zweite Semester wird grundsätzlich ebenso ablaufen wie das erste Semester. Es besteht erneut die Auswahl zwischen den oben bereits beschriebenen Optionen „A“ und „B“!</p> <p>HINWEIS (NICHT NUR FÜR DAS ZWEITE SEMESTER):</p> <p>Die Homepage der Bundeszentrale für Politische Bildung (BpB: http://www.bpb.de) in Bonn bietet viele sehr günstige Publikationen, die insbesondere für die 「III 歴史・社会」 Studenten interessant sein können. Das Verzeichnis der lieferbaren Bücher, CDs, DVDs etc. finden Sie unter: http://www.bpb.de/publikationen/9FFNFM.0.Publikationsverzeichnis.html</p> <p>Sollten die TeilnehmerInnen Interesse daran haben, können wir sehr preiswert eine Sammelbestellung aufgeben.</p>		<p>Egal, ob wir uns mit einfacheren Konversationsfragen oder mit politisch-historischen Fragen beschäftigen, besteht die Möglichkeit, dies im zweiten Semester auch mit Hilfe von Filmen (DVDs) zu tun. Hierbei kommen z.B. die politisch-historisch interessanten Spielfilme „<i>Goodbye Lenin!</i>“, „<i>Das Leben der Anderen</i>“ oder „<i>Das Wunder von Bern</i>“ in Frage.</p> <p>Eventuell können auch aktuelle Zeitungs- bzw. Zeitschriftenartikel im Unterricht behandelt werden.</p> <p>Ich möchte auch im zweiten Semester eine Stunde im Computerraum abhalten, um praktische Hinweise geben zu können, wie man das (deutsche!) Internet zur Verbesserung der eigenen Fähigkeiten verwenden kann. Neben dem Lese-Verständnis lässt sich auch das Hörverständnis (z.B. durch das Ansehen/Anhören deutschsprachiger Nachrichtensendungen etc.) verbessern.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wie im ersten Semester!		Wie im ersten Semester!	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch.</p> <p>Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen.</p> <p>Wir beginnen einfach... Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig.</p> <p>Der Schwerpunkt liegt auf Sprechen und Hören.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Wiederhlg. verschiedener Art 3. Tagesablauf, Termine 4. Familie 5. Einladung 6. Freundschaft/Geschenke 7. Wohnung 8. Wegbeschreibung 9. Studium 10. Berufsausbildung 11. Schulsystem 12. Sommertest 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語 III (会話)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fortsetzung des ersten Semesters in gleicher Form im Herbstsemester...Freie Auswahl nach Buch.</p> <p>Hörübungen vermehrt Hören und Sprechen freie Referate</p>		<p>Das zweite Semester orientiert sich mehr nach dem Buch. Dazu kommt mehr Video-Arbeit.</p> <p>Zusätzliches Material in Form von Kopien.</p> <p>Referate, freie Gespräche</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag		Mitarbeit, Test	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	Ronald Metzging
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course we want to read and repeat a German book of a film. Each student must read a part of the text at home every week and must repeat it in the next lesson. In this course teamwork is very important. Every lesson the students must make an abstraction of the whole text what we have still handled.</p> <p>Discussion about the text. The subject of the filmbook is the Stasi in the GDR. But in the actual form it is about democracy, freedom of speech and writing and tolerance. The title of the filmbook is: "Das Leben der Anderen." The film got several honours in Germany. The film was one of the best in Germany 2006.</p>		<p>1) introduction in the film, special the history of the Stasi in the GDR. Hand out of the text passage, which the students have to read at home.</p> <p>2) In groups the students must abstract the text passage and present her summing-up in written headwords and verbally form. Reading a little bit of the text in the book.</p> <p>3) 4)...9) like the second hour. Questions about the understanding. Discussion about the film subject.</p> <p>10)-12) see the film and test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		Evaluation: The test is in written form and will be done in the semester. The test will be questions about the film. At the end we see the film.	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	Ronald Metzging
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Hörverständnis:</p> <p>In the wintersemester we will hear short up-to-date texts. The students must answer questions and abstract what they have heard and report it. Discussion of the text.</p>		<p>1-12 - Hearing an short up-to-date text. - answer questions about the hearing text. - Abstraction of the hearing text. - Discussion of the hearing text.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		The evaluation will be a test in the semester.	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	カーラー トーマス
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die mündliche Ausdrucksfähigkeit zu verbessern		Den Ablauf des Unterrichts werden wir in der ersten Stunde gemeinsam besprechen	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die notwendigen Materialien werden im Unterricht verteilt		Anwesenheit, aktive Teilnahme, Test	

05年度以降 03年度以降	上級ドイツ語(会話) ドイツ語Ⅲ(会話)	担当者	カーラー トーマス
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die mündliche Ausdrucksfähigkeit zu verbessern		Wie im Frühlingsemester	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die notwendigen Materialien werden im Unterricht verteilt		Anwesenheit, aktive Teilnahme, Test	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gesprächssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeübt werden. Dabei sind Themenvorschläge von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeiten berücksichtigt. Ausserdem sind Übungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Prüfung dienen koennen.		初回の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.		Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語 (会話) ドイツ語Ⅲ (会話)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Anhand verschiedener Gesprächssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeübt werden. Dabei sind Themenvorschläge von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Möglichkeiten berücksichtigt. Ausserdem sind Übungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Prüfung dienen koennen.		初回の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.		Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir werden uns verschiedenen Arten von Schreibübungen widmen, von einfachen persönlichen Mitteilung bis hin zu offiziellen Briefen, vor allem aber werden wir dabei auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen.</p> <p>Regelmäßige Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern.</p> <p>Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch auf Wünsche und Fragen der Studenten kann ich eingehen.</p> <p>Schreiben soll Spaß machen..</p>		<p>Der Ablauf des Jahresplanes wird zu Semesterbeginn besprochen, dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer.</p> <p>Freude und Interesse am Schreiben müssen die Teilnehmer mitbringen, regelmäßige Teilnahme ist erforderlich.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』(Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語(作文) ドイツ語Ⅲ(作文)	担当者	H.J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fortsetzung des Sommersemesters ab September (Herbstsemester) in ähnlicher Form</p>		<p>Fortsetzungen aus dem ersten Semester mit Buch und Zusatzmaterialien</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Fukuda/H. Troll 『表現と作文』(Verlag 白水社)		Hausaufgaben und End-Semestertests	

03 年度以降	上級ドイツ語(作文)	担当者	カーラー トーマス
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die schriftliche Ausdrucksfähigkeit zu verbessern		Progressiver Aufbau	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die notwendigen Materialien werden im Unterricht verteilt		Anwesenheit, Aktive Teilnahme, Test	

03 年度以降	上級ドイツ語(作文)	担当者	カーラー トーマス
講義目的、講義概要		授業計画	
Das Ziel dieses Kurses ist, die schriftliche Ausdrucksfaehigkeit zu verbessern		Progressiver Aufbau	
テキスト、参考文献		評価方法	
Die notwendigen Materialien werden im Unterricht verteilt		Anwesenheit, Aktive Teilnahme, Test	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語 (作文) ドイツ語Ⅲ (作文)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant.		初回の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.		Zur Benotung werden gelegentlich Hausaufgaben zur Korrektur eingesammelt.	

05 年度以降 03 年度以降	上級ドイツ語 (作文) ドイツ語Ⅲ (作文)	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs. Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten. Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil „Schriftlicher Ausdruck“ der ZD-Pruefung geplant.		初回の授業で説明します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt.		Zur Benotung werden gelegentlich Hausaufgaben zur Korrektur eingesammelt.	

03 年度以降	中世ドイツ語 I	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziele des Unterrichts: Kennenlernen der wesentlichen Merkmale des Mittelhochdeutschen Überblick über wichtige mittelhochdeutsche Texte		Durch die Lektüre von Ausschnitten berühmter mittelhochdeutscher Texte wie „Tristan und Isolde“ (eine wunderschöne Liebesgeschichte!!!), „Parzifal“, „Nibelungenlied“ u.a. wird ein Einblick in die frühe Geschichte der Deutschen Sprache gewonnen. Gleichzeitig lernt man Stoffe kennen, die die Grundlage für viele Filme, Opern, Gemälde und andere Kunstwerke darstellen. Die Themen werden in Absprache mit den Studenten festgelegt.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt		regelmässige aktive Teilnahme; kleiner Test am Semesterende	

03 年度以降	中世ドイツ語 II	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziele des Unterrichts: Kennenlernen der wesentlichen Merkmale des Mittelhochdeutschen Überblick über wichtige mittelhochdeutsche Texte		Siehe oben!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt		regelmässige aktive Teilnahme; kleiner Test am Semesterende	

03 年度以降	通訳特殊演習 I	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>★定員 20 名。定員を超えた場合には選抜試験を行うので、第 1 回授業に必ず参加してください。</p> <p>★Zertifikat Deutsch もしくは独検 2 級「程度」のドイツ語力を持っていることを前提にします。それ以上に、「やる気」を持っている学生を歓迎します。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を練習しながら、ドイツ語能力の全体的な向上を目指します。</p>		<p>第 1 回授業で指示します。</p> <p>基本的な練習として：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドウイング（「影」のようになぞる練習） ・エコー・トレーニング（「こだま」のように反復） ・クイック・レスポンス（短文の日独，独日翻訳） ・早口言葉 <p>などを取り入れて、基礎能力向上を目指します。</p> <p>さらに、皆さんの先輩が学生時代に通訳として実際に体験した「日独スポーツ少年団同時交流」などでのアテンド通訳の基本的なシーンやテキストをもとに実践的な練習します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		授業への参加度をもとに判断します。	

03 年度以降	通訳特殊演習 II	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>★定員 20 名。定員を超えた場合には選抜試験を行うので、第 1 回授業に必ず参加してください。</p> <p>★Zertifikat Deutsch もしくは独検 2 級「程度」のドイツ語力を持っていることを前提にします。</p> <p>通訳という実践的な場面を想定しながら、基礎トレーニングの方法を学び、実際の場面を練習しながら、ドイツ語能力の全体的な向上を目指します。</p>		<p>第 1 回授業で指示します。</p> <p>春学期同様に、基本的な練習として：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドウイング ・エコー・トレーニング ・クイック・レスポンス ・早口言葉 <p>などを取り入れて、基礎能力向上を目指します。</p> <p>その他、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bildbeschreibung ・Textinterpretation <p>など、言語技術の向上を目指す練習もします。</p> <p>さらに、獨協でのドイツ大使などのあいさつ（入学式、記念式典など）、地方自治体レベルでの交流でのあいさつなどのテキストをもとに、実践的な練習をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布します。		授業への参加度をもとに判断します。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学概論 I ドイツ語学概論 a	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおよそ 1 億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとするには、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 春学期では、これから新しくドイツ語を学びつつある諸君とともに、そして他方、今までドイツ語を学んできた諸君と、ドイツ語のいろいろな姿を観察し、そのおおよその全体像を把握していこうと思う。名づけて、「ドイツ語の森—散策コース」。和気あいあいと、楽しみながら散歩をして、ドイツ語がどのようなものなのか見てみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本ではどのようにドイツ語が学ばれてきたか。いま、なぜドイツ語か。 2. ドイツ語の文字とその歴史 3. ドイツ語って格変化と人称変化ばかりで... 4. ドイツ語の疑問に答える 5. 昔のドイツ語はどんなだった？ 6. 英語や他の言語との結びつきは？ 7. 南の人のドイツ語は北の人にはわかりにくいのです 8. 書き言葉はいつごろつくられたのか 9. ドイツにはどんな地名や人の名があるか 10. 現代ドイツ語ってどういう特徴があるの？ 11. ドイツ語の森の散歩を振り返って 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他第 1 回目の講義で指示</p>		<p>春学期の筆記試験と 2000 字程度のレポートによる受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に講義に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学概論 II ドイツ語学概論 b	担当者	柿沼 義孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標： ドイツ語は世界でおよそ 1 億の人々によって話されている。諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとするには、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある。この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。</p> <p>講義概要： 秋学期は、いささかしんどいかもしれないが、春学期のドイツ語の森の散歩で観察した、さまざまな言語現象をさらに深く掘り下げるための、いわば、研究、調査用のアイテムを探し求めてドイツ語の森を探検する。名づけて、「ドイツ語の森—探検・征服コース」。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語はどうやって研究するの（言語研究の方法 1） 2. 言語における点と線（言語研究の方法 2） 3. グリムってあのグリム童話の？（言語研究の歴史 1） 4. ドイツの文法学者たち（言語研究の歴史 2） 5. ドイツ語研究 1. 語彙と形態 6. " 2. 文の構造 7. " 3. ことばの意味（1） 8. " 4. ことばの意味（2） 9. " 5. 道具としての言語（語用論） 10. " 6. 音声と音韻（音声学と音韻論） 11. 日本語とドイツ語を参照する（対照言語学的研究） 12. ことばと文化（まとめ） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：入門のために：カール＝ディーター・ビュンディング千石喬川島敦夫訳：『言語学入門』（白水社） 黒田龍之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書） その他授業中に紹介する。</p>		<p>秋学期の筆記試験と 2000 字程度のレポートによる受講者に対する要望：講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう。</p>	

05 年度以降 03 年度以降	ドイツ文学概論 I ドイツ文学概論 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1) ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2) 文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3) ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>春学期はドイツ語圏文学の通史として中世から 19 世紀までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテを中心に据える。その際、必ずゲーテの『若きウェルテルの悩み』は読むことになる。堅苦しい話だけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係から論じていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「作家」とはなにか? 2. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(1) 3. 中世からルネッサンス・宗教改革まで(2) 4. バロックから啓蒙主義(1) 5. バロックと啓蒙主義(2) 6. シュトルム・ウント・ドランクとゲーテ 7. 『ウェルテル』について(1) 8. 『ウェルテル』について(2) 9. 古典主義 10. 初期ロマン主義と後期ゲーテについて 11. 後期ロマン主義・ナショナリズムと文学 12. まとめ(あるいは予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：教科書は特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。『ウェルテル』はレポート課題図書なので入手することになる。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		<p>出欠はとる。講義で扱ったテーマに関するレポートを学期中に課す。期末試験もやる。以上の要素から総合評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05 年度以降 03 年度以降	ドイツ文学概論 II ドイツ文学概論 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>1) ドイツ語で書かれた文学で代表的なものを取り上げ読んでみる。翻訳のあるものを紹介するので、できるだけ多くの文学テクストを読んでほしい。</p> <p>2) 文学を通してその背景にあるドイツ語圏の歴史的社会的背景も探る。文学を、専門領域に限定せずに様々な学問領域を横断して論じる。</p> <p>3) ドイツ語圏というヨーロッパの一地域にある文学を学ぶことを通して、文学に代表される「書く」という行為の普遍性を考えてみる。書き手として作家とはどんな存在なのかを理解する。</p> <p>講義概要</p> <p>秋学期はドイツ語圏文学の通史として 19 世紀頃から現代までの文学の概略を紹介する。その際ゲーテが、ある時代の終わりとして、この講義の始まりに置かれる。秋学期の講義は「文学」および「作家」の終焉をテーマにする。その際、必ずカフカの短編(『変身』)は読むことになる。「文学の終焉」という堅苦しいテーマだけでは学生の関心が続かないので、視聴覚教材を用いる。文学を音楽にしたもの、映像化したものを原作との関係、および現代社会における原作および作家性の消失から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 「ある種の文学の終焉」について 2. 革命と文学 3. (詩的)リアリズム 4. 19 世紀末／表現主義第一次大戦／ダダイズム 5. ヴァイマル共和国時代(1) 6. ヴァイマル共和国時代(2) 7. ナチスの台頭と亡命文学(1) 8. ナチスの台頭と亡命文学(2) 9. 第二次大戦後の文学／冷戦下の文学(1) 10. 第二次大戦後の文学／冷戦下の文学(2) 11. 現在の文学の諸相 12. まとめ(あるいは予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：教科書は特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。『変身』はレポート課題図書なので入手することになる。</p> <p>参考文献：必要に応じその都度指示する</p>		<p>出欠はとる。講義で扱ったテーマに関するレポートを学期中に課す。期末試験もやる。以上の要素から総合評価。詳細は授業中に指示する。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学各論 I ドイツ語学各論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ことばとは何か、と聞かれてすぐに答えられることはなかなか難しい。我々がことばを使ってコミュニケーションをとっている場合には、文法規則や語彙ばかりではなく、さまざまな要素を瞬時に判断して、話し手の伝えようとしていることを理解しようとするわけだが、普段はほとんど意識することはない。外国語を使う場合には、文法規則や語彙に気を取られて、母国語を使うようにはいかない。この授業では、普段意識することのないが、コミュニケーションをとる上で大変重要で、またしばしば問題を引き起こすような事柄を扱う。</p> <p>授業に際しては、単に講義をするのではなく、受講するみなさんと一緒にじっくりと考えていきたいと思う。</p> <p>ただ単に授業に出席して、何かの知識を得ようとするのではなく、自分なりに考え、他の人と意見の交換をする意欲がなければ、まったく意味のない授業になります。</p>		<p>基本的に各回にそれぞれ主要なテーマについて話し合う。春学期に関しては、ことばとは何か、前提、推論などを扱う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		授業への参加度、学期末の試験。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ語学各論 I ドイツ語学各論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ことばとは何か、と聞かれてすぐに答えられることはなかなか難しい。我々がことばを使ってコミュニケーションをとっている場合には、文法規則や語彙ばかりではなく、さまざまな要素を瞬時に判断して、話し手の伝えようとしていることを理解しようとするわけだが、普段はほとんど意識することはない。外国語を使う場合には、文法規則や語彙に気を取られて、母国語を使うようにはいかない。この授業では、普段意識することのないが、コミュニケーションをとる上で大変重要で、またしばしば問題を引き起こすような事柄を扱う。</p> <p>授業に際しては、単に講義をするのではなく、受講するみなさんと一緒にじっくりと考えていきたいと思う。</p> <p>ただ単に授業に出席して、何かの知識を得ようとするのではなく、自分なりに考え、他の人と意見の交換をする意欲がなければ、まったく意味のない授業になります。</p>		<p>基本的に各回にそれぞれ主要なテーマについて話し合う。秋学期に関しては、発話行為や意味について扱う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		授業への参加度、学期末の試験。	

05 年以降 03 年以降	ドイツ文学各論 I ドイツ文学各論 a	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>獨協大学ドイツ語学研究室は、常日頃駄洒落が飛び交うことで知られている。ドイツ語圏にもむろん言葉遊びはある。問題は、その言葉遊びにいかなるメッセージ性があるかである。ナンセンス詩と呼ばれるものでも、一見遊び半分ではかばかしいように見えはするが、よく見るとその底には創造力に富んだ深い意味が隠されている場合がある。</p> <p>この時間では近世から現代にいたるドイツ語圏の文学に見られる「言語実験」を探り、言葉遊びのメッセージ性について考えてみる。</p> <p>担当者は題材の発掘に努めるが、受講生諸君も意味深い言葉の遊戯を発見し教えて欲しい。</p>		<p>一応講義形式で授業を進める予定ではあるが、各授業時間の終わりに、その内容について意見・質問・感想などを受講者に書いてもらい、場合によっては次の時間の討議内容にしたい。</p> <p>Hans Sachs, Luther, Lessing, Mozart, Goethe, Brentano, Jean Paul, Eichendorff, Nestroy, Heine, Trakl, Brecht, Ringelnatz, Heissenbüttel, Grass, Handke, Heinz Erhardt, Wedekind, Klee, Ringelnatz, Schwitters, Hugo Ball, Hans Arp, Karl Valentin, Tucholsky, Ivan Goll, Kästner, Grosz, Rühm, Celan, Martin Walser, Peter Hacks などから資料を選ぶ予定。 (折にふれてビデオ機器も使用する)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材はコピーして配布する。 参考文献は授業中に指示する。		普段の小レポートと期末に提出予定のレポートにより総合的に評価をする。	

05 年以降 03 年以降	ドイツ文学各論 II ドイツ文学各論 b	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	

03 年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze Texte, die sich mit dem Thema „Sprache“ beschäftigen und zu verschiedenen Textsorten gehören (wissenschaftliche Texte, Zeitungsartikel, Artikel aus Wörterbüchern, humoristische Texte....).</p> <p>Zur Auswahl stehen Themen wie: aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Dialekte, Sprachvergleich oder Sprachgeschichte.</p> <p>Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben gestellt, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach im Unterricht besprochen werden :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Fragen zum Inhalt - Analyse der Textstruktur - Zusammenfassung - Wortschatzaufgaben usw. 		<p>1. – 5. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>6. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p> <p>7.- 11. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>12. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		2 schriftliche Tests	

03 年度以降	ドイツ語講読(語学)	担当者	A. リプスキ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze Texte, die sich mit dem Thema „Sprache“ beschäftigen und zu verschiedenen Textsorten gehören (wissenschaftliche Texte, Zeitungsartikel, Artikel aus Wörterbüchern, humoristische Texte....).</p> <p>Zur Auswahl stehen Themen wie: aktuelle Entwicklungstendenzen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Dialekte, Sprachvergleich oder Sprachgeschichte.</p> <p>Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben gestellt, die die Kursteilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereiten und die danach im Unterricht besprochen werden :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Fragen zum Inhalt - Analyse der Textstruktur - Zusammenfassung - Wortschatzaufgaben usw. 		<p>1. – 5. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>6. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p> <p>7.- 11. Stunde: Lektüre von 2- 3 Texten</p> <p>12. Stunde: Test zu den besprochenen Texten</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
コピーを配布する。		2 schriftliche Tests	

03 年度以降	ドイツ語購読 (語学)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は比較的平易なテキストを媒介にして、</p> <p>1. 文法知識の徹底と強化 2. 将来に通じる読解力、訳出力の養成</p> <p>を図ります。学年が上がるうちに「いつの間にか、同級生よりも後れをとってしまった。」とか、「きちんと突き詰めて文法知識を習得したい。」等の思いを抱いている人に好適かと思えます。</p> <p>その一方、ドイツ語検定2級合格も視野に入れて、種々の注意を喚起します (従って、すでに2級を取得している人は初回の講義の様子を見て履修するかどうか決めて下さい)。</p>		<p>春semesterにおいては前述の 1. に重きを置きます。文法中心の内容となるため、いわゆる速読・多読の形式は採りません。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭 (ないしは板書) での解答を求めることとなりますから、受講者の皆さんは突然の指名にも応えられるよう常に緊張感をもって出席して下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントにて配布。 独和辞典及び文法の資料 (手持ちの参考書等) 必携。</p>		<p>出席重視。また、最終講義時にペーパーテストを実施します。正当な理由が不明なまま、連続して3回以上欠席した場合は名簿から削除することがあるので注意。</p>	

03 年度以降	ドイツ語購読 (語学)	担当者	永岡 敦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋semesterでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は先述の 2. に移行させます。というのも、テキストの概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた。」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。個々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の堆積」からの脱却を図ります。</p>		<p>履修者の人数、春semester中の受講者の有りよう (= 受講態度や、私の発した設問に対する正答率)、また春semester終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ、適切に対処します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春semesterに同じ。</p>		<p>春semesterに同じ。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>俗語がテーマです。テキストは会話文を使います。会話ですから文法的にも、語も構文も簡単です。（ドイツ語基本単語1000語の知識があれば足りるでしょう。）俗語表現は簡単な語句からなっていることが多いのですが、その意味を厳密に知るのには意外に難しいものです。そもそも俗語表現というのは、多分どの国の言葉でも同じでしょうが、正確な意味を伝えるというよりも雰囲気表現するムード的な側面があるからです。（“まったく”、とか、“ビミョー”なんて、いったい何なんだ！）</p> <p>予習は必要ありません。（言ってもやらないでしょうが。）授業時間中にしっかり勉強してください。でも復習は必要です。小テストを10回はやる予定ですから。（1回10点で10回＝100点！単純！定期試験はおこないません。）</p>		使用教科書の前半を使って授業を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで用意します。		小テストによる。定期試験は行わない。	

03年度以降	ドイツ語講読（語学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>俗語がテーマです。テキストは会話文を使います。会話ですから文法的にも、語も構文も簡単です。（ドイツ語基本単語1000語の知識があれば足りるでしょう。）俗語表現は簡単な語句からなっていることが多いのですが、その意味を厳密に知るのには意外に難しいものです。そもそも俗語表現というのは、多分どの国の言葉でも同じでしょうが、正確な意味を伝えるというよりも雰囲気表現するムード的な側面があるからです。（“まったく”、とか、“ビミョー”なんて、いったい何なんだ！）</p> <p>予習は必要ありません。（言ってもやらないでしょうが。）授業時間中にしっかり勉強してください。でも復習は必要です。小テストを10回はやる予定ですから。（1回10点で10回＝100点！単純！定期試験は行いません。）</p>		使用教科書の後半を使って授業を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
こちらで用意します。		小テストによる。定期試験は行わない。	

03 年度以降	ドイツ語講読(文学)	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>*火曜1限と水曜2限を併せて履修し、4単位一括認定。 *2006年度同科目・同担当者との重複履修は不可。</p> <p>「新・旧約聖書を読む」</p> <p>(講義目的)</p> <p>1) 欧米の文学を読む際に、ギリシャ神話(悲劇)とともにキリスト教についての知識は必須である。したがって、「新・旧約聖書」の中から有名なエピソードを読み、キリスト教に関する最低限の知識を得ること。</p> <p>2) 同時に、ドイツ語聖書の文体に親しむこと。</p> <p>3) 聖書には独特の簡潔な文体があり、講読は容易ではない。それらに慣れると共に、有名なフレーズ(多くの文学作品・講演・日常会話でも引用される)に親しむ。</p> <p>(講義概要)</p> <p>1) 現代語訳聖書講読：前半は「新約聖書」を現代語訳で読み、内容を把握する。</p> <p>2) ルター訳聖書講読：後半は「旧約聖書」をルター訳で読む。</p> <p>3) その他、聖書のエピソードが描いた宗教画を見て、各主題(例：受胎告知、磔刑など)の描かれ方も見てみたい。</p>		<p>(前半)</p> <p>1 受胎告知 2 生誕 3 洗礼者ヨハネ 4 福音・山上の垂訓 5 たとえ話 6 奇跡 7 最後の晩餐 8 審問 9 磔刑 10 復活 11 昇天 12 まとめ</p> <p>(後半)</p> <p>13 天地創造 14 失樂園 15 カインとアベル 16 ノアの箱舟 17 バベルの塔 18 アブラハムの試練 19 出エジプトと十戒 20 ダビデ王 21 ソロモン王 22 バビロン捕囚 23 預言者たち 24 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lutherbibel 並びに Einheitsübersetzungsbibel		選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。評価を受けるには、出席・授業中の分担・試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

03年度以降	ドイツ語購読（文学）	担当者	酒井 府
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>何人かのドイツの現代作家（20世紀）の短い作品を読む事によって、学生諸君が、現代世界が抱えている問題を知り、同時に異なる文体に馴染むことを目的とする。現在は文学になじむ学生が少ないが、文学に関心を抱くことを心から望みます。</p>		<p>一回の授業あたり一頁を目標とし、学生諸君には一回当たり十行前後を訳してもらおう。従って一度の授業に三人から四人に担当してもらおう。担当箇所は前週に指摘する。なお学生諸君が訳した後に私が今一度訳します。授業は原則として時間通りに始め、時間通りに終わります。従って朝早いですが遅刻しないこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配ります。</p>		<p>学期における何度かの訳担当と期末試験による。</p>	

03年度以降	ドイツ語購読（文学）	担当者	酒井 府
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の内容を参照せよ。</p>		<p>春学期の内容を参照せよ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期の内容を参照せよ。</p>		<p>春学期の内容を参照せよ。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる高尚な（と言われる）文学作品ではなく、大衆から喝采を浴びた通俗的な笑劇のテキストを読み、サブカルチャー的観点からその作品の持つ社会的意味を考える。通俗文学として馬鹿にしてはならない。ここにこそ庶民の飾らない本音がうかがわれるといってもよい。この授業では、19世紀末に大ヒットし、現在でもしばしば上演され、幾度か映画化されもした Franz von Schönthan の笑劇『サビニ女の略奪 Der Raub der Sabinerinnen』を読む。</p> <p>座長がもともと喜劇役者でひどいザクセン訛りなので、崇高な悲劇が抱腹絶倒のお笑いになってしまい、劇場騒動まで引き起こすというストーリー展開。</p>		<p>できるだけ劇作品であるため、テキストの視覚的理解を心がけ、その背後にひそむ諸問題について、受講者全員で考えていく。むろんドイツ語で書かれたテキストを扱うため、ドイツ語を読む訓練を兼ねるが、なによりもそのドイツ語に含まれる問題の源泉を理解してもらいたい。ただこの芝居のドイツ語は、一般大衆が喜ぶ芝居であるため、古典劇の場合と異なり、やさしい。必要に応じて、ビデオ機器も使用しながら、多面的な授業にしたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはコピーして配布。（ドイツのインターネット”Yahoo Deutschland”からもプリントアウトできる。）参考文献は講義中に指示する。</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテストにより総合的評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる予定であるが、テキストを読み終えた時点で別な作品に転換する可能性もある。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期とテキストが異なる場合には事前に指示する。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1時間の一つ、短い（せいぜい10行くらいの）文章をテキストとします。これらの文章は最も今風のドイツ語、俗語で溢れています。日常的にも使えます。表現はよく工夫されていて、なかなか面白い文章です。純然たる文学、所謂「ドイツ文学」を目指す人には不向きだと思います。寧ろ日常的なドイツ語、俗語に関心のある人向きでしょう。映像資料を補助教材として使用します。予習は必要ありません。（言ってもやらないでしょうが。）授業時間中にしっかり勉強してください。でも復習は必要です。小テストを10回はやる予定ですから。（1回10点で10回＝100点！単純！定期試験は行いません。）</p>		<p>使用教科書の前半を使って授業を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>こちらで用意します。</p>		<p>小テストによる。定期試験は行いません。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（文学）	担当者	木内 基実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1時間の一つ、短い（せいぜい10行くらいの）文章をテキストとします。これらの文章は最も今風のドイツ語、俗語で溢れています。日常的にも使えます。表現はよく工夫されていて、なかなか面白い文章です。純然たる文学、所謂「ドイツ文学」を目指す人には不向きだと思います。寧ろ日常的なドイツ語、俗語に関心のある人向きでしょう。映像資料を補助教材として使用します。予習は必要ありません。（言ってもやらないでしょうが。）授業時間中にしっかり勉強してください。でも復習は必要です。小テストを10回はやる予定ですから。（1回10点で10回＝100点！単純！定期試験は行いません。）</p>		<p>使用教科書の後半を使って授業を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>こちらで用意します。</p>		<p>小テストによる。定期試験は行いません。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文化史概論 I ドイツ文化史概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ(語圏)の文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、文化史上の基本概念や、重要な歴史的・文化史的事象について情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、文化史に「ドイツ」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ(語圏)の文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ(語圏)の文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 中世のドイツ文化 3 同上 4 ルネサンス・宗教改革期のドイツ文化 5 同上 6 三十年戦争とバロック期のドイツ文化 7 同上 8 啓蒙時代のドイツ文化 9 同上 10 同上 11 フランス革命とドイツ文化 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ文化史概論 II ドイツ文化史概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 これからドイツ(語圏)の文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、文化史上の基本概念や、重要な歴史的・文化史的事象について情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、文化史に「ドイツ」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p>講義概要 ドイツ(語圏)の文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ(語圏)の文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2 ドイツ・ロマン派 3 同上 4 ブルジョアの時代と近代文化批判 5 同上 6 世紀転換期のドイツ文化 7 ヴァイマル文化 8 同上 9 ナチズムと文化 10 同上 11 戦後ドイツの知的歴史 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポート、または試験により評価。詳細は授業中に指示する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの思想 I ドイツの思想 a	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アドルノの『道徳哲学講義』をテキストとして読み、適宜コメントを加える。アドルノは、フランクフルト学派の代表的思想家として前世紀後半のドイツ思想展開の中で大きな役割を演じた。テキストはフランクフルト大学1963年度夏学期に『道徳哲学の諸問題』というタイトルでおこなわれた講義の講義録である。まずカントの『純粹理性批判』にあらわれる自由と自然必然性とのアンチノミー（二律背反）論を検討している。授業ではアドルノの議論の展開に沿って、このアンチノミー論を理解することを目指す。又現代において道徳哲学は社会批判なしには不可能であるという批判理論の根底にたって行われる諸問題の考察をアドルノとともにたどる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入；アドルノの生涯と思想の概略を紹介する。 2. 導入；カント『純粹理性批判』の自由と自然必然性のアンチノミー論からテーゼとアンチテーゼを、天野貞佑訳に拠って解説する。 3. アドルノ著『道徳哲学講義』を読む。テキストは2時間講義の17回分からなる。本授業では1回分の講義を2回に分けて読み、コメントを加える形で進むことを目安にしたい。以下同様。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：アドルノ著『道徳哲学講義』（作品社刊、2006年）</p>		<p>期末定期試験（テキスト持ち込み）及び、平常授業の4, 5, 6月の各月末に各1回簡単なメモの提出。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの思想 I ドイツの思想 b	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準ずる。</p>		<p>春学期に準ずる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：アドルノ著『道徳哲学講義』（作品社刊、2006年）</p>		<p>期末定期試験（テキスト持ち込み）及び、平常授業の10, 11, 12月の各月末に各1回簡単なメモの提出。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの音楽Ⅰ ドイツの音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。春学期には、中世から18世紀までに書かれた多様な音楽作品を取りあげます。普段耳にする機会の少ない作品も多いと思いますが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>各回ごとにテーマを定めてお話しします。以下のようなテーマでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入、概観 ・中世の音楽 ・15～17世紀の声楽作品 ・15～17世紀のオルガン音楽 ・南ドイツのバロック音楽 ・J. S. バッハの音楽 ・ヘンデルとテレマンの音楽 ・前古典派の音楽 ・ハイドンの音楽 ・W. A. モーツァルトの音楽 <p>（複数回にわたってお話しするテーマもあります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの音楽Ⅱ ドイツの音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料で聴き、親しんでいただく授業です。秋学期には、18世紀終わり頃から現代に書かれた音楽を、主に作曲家とその作品という観点から取りあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わりには、ドイツ語圏の国歌や民謡も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく通年で履修してください。</p> <p>注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。楽譜を用いて解説することもありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>各回ごとにテーマを定めてお話しします。以下のような作曲家等の作品を取りあげられることを予定していますが、みなさんの関心や進捗等に応じて変更する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベートーヴェン ・シューベルト ・シューマン ・メンデルスゾーンとブラームス ・リストとヴァーグナー ・J. シュトラウスⅡ世とR. シュトラウス ・ブルックナー、マーラー、新ウィーン楽派 ・20世紀中葉以降のドイツの音楽 ・ドイツ語圏の国歌 ・ドイツ語圏のクリスマスの音楽 ・ドイツ語圏の民謡 <p>（複数回にわたってお話しするテーマもあります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。また、授業中に感想などを書いてもらいます。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの美術 I ドイツの美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ美術の特質とは何か。これをテーマに、他のヨーロッパ美術と比較しながら、ドイツ美術の特徴を探ってゆきます。</p> <p>中でも春学期は、初期中世からルネサンスまでの芸術を概観します。</p> <p>講義の中では、毎回主要な作品を自分の目で見て、自分の言葉で記述する「ディスクリプション」を行います。学期末には授業中に書いたディスクリプションを全て提出していただきます。</p>		<p>毎回主要なテーマを決め、作品の解説を行います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中でその都度指示します。		試験と提出物。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの美術 II ドイツの美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、時代をルネサンスから近現代のドイツ美術まで幅広く扱い、春学期と同様に、ドイツ美術の特質に迫ります。</p> <p>春学期に引き続き、講義中にディスクリプションを書いていただき、学期末に提出していただきます。</p>		<p>毎回主要なテーマを決め、DVD も使用しながら、ドイツ美術について幅広い時代から眺めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中でその都度指示します。		試験と提出物。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの演劇Ⅰ ドイツの演劇 a	担当者	大塚 直
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ文化の核心は〈演劇〉にあるといっても過言ではない。18世紀末の「ドイツ運動」は、そもそもシェイクスピアやギリシア悲劇などとの格闘を通じて生み出されてきたものであるし、ドイツ語圏では長らく〈演劇〉が国民を教育するための啓蒙のメディアとして機能してきた。そして現在でも、法外な助成金を受けてこの公共の劇場制度は維持されているのである。</p> <p>前期の授業では、1) ドイツ最初のドラマトゥルクであるレッシングの登場から、道徳的施設として劇場を捉えたゲーテとシラー、彼らの流れを汲むクライストの戯曲に触れる。2) 歴史認識の手段として〈ギリシア悲劇〉と格闘したヘルダリーンと初期ヘーゲルの思想を紹介する。3) 同時代の「社会性」と取り組んだレンツとビューヒナーの演劇、性と死の問題を喚起したヴェーデキントとシュニッツラーの戯曲を考察する。</p> <p>いわゆる文学史・演劇史の流れをおさえるのではなく、今日でもドイツ語圏の劇場で頻りに上演される古典作家たちの問題作を〈共時的〉に採り上げながら、時代の矛盾を照らし出す鏡としての演劇の存在意義を問う。彼らの美意識や政治感覚は、現代ドイツの政治文化を考えるうえで極めて重要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期授業ガイダンス 悲劇と喜劇、ドイツ演劇の魅力とは？ 2. 近代ドイツ演劇の勃興 『シェイクスピアと独逸精神』『悲劇の死』 3. 先駆者レッシングの演劇理論 『エミーリア・ガロッティ』『賢者ナータン』など 4. シュトゥルム・ウント・ドラング レンツの喜劇『家庭教師』と『軍人たち』 5～6. ゲーテとシラーの登場 『ゲッツ』『群盗』『ファウスト』など 7. ヘルダリーンという存在について 『エムペドクレスの死』 8. 初期ヘーゲルの悲劇思想 9. クライスト劇における無意識／マリオネット 『ペンテジレイア』『公子ホムブルク』など 10. ゲオルク・ビューヒナー 『ダントンの死』と『ヴォイツェク』 11. フランク・ヴェーデキント 『春の目覚め』と『ルル二部作』 12. 世紀末ウィーンとシュニッツラー エロスの戯曲『輪舞』 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。また必要に応じてビデオ教材を使用する。参考文献は、授業中に指示する。		出席状況、積極的に授業に参加してくれたかどうか、および学期末のレポート提出によって総合的に評価する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの演劇Ⅱ ドイツの演劇 b	担当者	大塚 直
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀初頭の「写真」「ラジオ」「映画」などニュー・メディアの勃興に伴って、人類の〈知覚様式〉は大きく変容を蒙ることになる。このような社会環境の刷新とともに演劇メディアもまた変貌を遂げねばならなくなった。従来は作家／テキストを中心に考察され、文学研究の一部門であった演劇は、演出家／パフォーマンスを中心に据えた視座から学として独立し、「演劇学」が誕生するのである。</p> <p>後期の授業では、1) このようなメディア論的視座へのガイダンスとしてベンヤミンの『複製技術時代の芸術作品』に触れながら、新時代に即して〈演劇〉を構築し直したブレヒトの演劇理論を実践的な舞台作品とともに概観する。2) 1960年代末、(政治の季節)とともに演劇は新たなパラダイム・シフトの時を迎え、いわゆる「ポストドラマ演劇」(レーマン)が次第に主流となっていく。その文脈からブレヒト／ミュラーの「教育劇」の可能性、若きハントケの登場と「純粹言語劇」、シュトラウスと劇団シャウビューネ、〈女性論〉を横断するイエリネク劇の音楽的ディスクルス等を読み解いていく。3) 再統一以降のドイツの演劇シーンに登場してきた新進劇作家マイエンブルク、シンメルプフェニヒ、モーリッツ・リンケ等の戯曲を紹介し、現代ドイツの〈同時代演劇〉の特徴を論じたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期授業ガイダンス 20年代と68年、メディア論的視座とは？ ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』 2. 若きブレヒトの登場 『男は男だ』『三文オペラ』など 3. ブレヒトの演劇理論「叙事的演劇」「弁証法の演劇」 四大作品の紹介 4. ブレヒト／ミュラーの「教育劇」 『処置』『ホラティ人』『モーゼル』など 5. ハイナー・ミュラーと「ポストドラマ演劇」 『ハムレットマシーン』『メディアマテリアル』など 6. ペーター・ハントケの「純粹言語劇」、ヴァルザーと 「意識の演劇」、寺山修司のヨーロッパ公演など 7～8. ポートー・シュトラウスと劇団シャウビューネ 『避暑に訪れた人びと』『公園』『終合唱』など 9. エルフリーデ・イエリネクの「コラーージュ劇」 『スポーツ劇』『死と乙女』など 10. 演出家の現在 マルターラー、タールハイマー、ポレシュ他 11～12. マイエンブルクとシンメルプフェニヒ他 『火の顔』『昔の女』など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜、プリントを配布する。また必要に応じてビデオ教材を使用する。参考文献は、授業中に指示する。		出席状況、積極的に授業に参加してくれたかどうか、および学期末のレポート提出によって総合的に評価する。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ思想・芸術各論Ⅰ ドイツ思想・芸術各論 a	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年はH・ハイネ没後150周年でした。ハイネは日本では「ローレイ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p> <p>また、講義の合間に、できるだけハイネの詩による歌曲を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイネ紹介と序文 2. 第1巻 宗教改革とマルチン・ルター 人民の哲学 3. 同 キリスト教と民間信仰 4. 同 マルチン・ルターと民間信仰 5. 同 唯心論と感覚主義 6. 同 宗教改革と思想の自由 7. 同 ルターによるドイツ文語の確立 8. 同 ルターとドイツ文学 9. 第2巻 ドイツ哲学革命の先駆者スピノザとレッシング 現代哲学の父デカルト 10. 同 唯物論と観念論 11. 同 スピノザ 12. 同 レッシング <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Zur Gesichte der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)</p>		<p>授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ思想・芸術各論Ⅱ ドイツ思想・芸術各論 b	担当者	下川 浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年はH・ハイネ没後150周年でした。ハイネは日本では「ローレイ」の作詞者・抒情詩人として知られています。歌曲の好きな人なら、シューマンやシューベルトがハイネの詩に曲をつけた歌曲集を知っているでしょう。けれどもハイネは、少年時代をフランス革命軍の駐留していたデュッセルドルフで過ごし、ボンやゲッティンゲンで法律を学び、ベルリンでヘーゲルの哲学講義を聞き、その影響を受けた革新的思想家でもあったのです。</p> <p>ハイネ自身の思想は詩の形でも散文作品の形でも著されていますが、この講義では『ドイツ宗教・哲学史考』を採り上げ、ハイネがドイツ人の宗教観・世界観をどのようにとらえていたかを説明します。</p> <p>ゲルマン神話を背景に、ルターがどのようにカトリック教会を批判し、宗教改革を成し遂げ、かつドイツ語の統一に貢献したか、スピノザとレッシングがどのような形でドイツ古典哲学の先駆けとなったか、そしてカント、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルらによる「哲学革命」がどのようにして起こったかを、ハイネが哲学的でも宗教的でもない、ハイネ独特のイロニッシュなスタイルで論じていることを紹介します。</p> <p>また、講義の合間に、できるだけハイネの詩による歌曲を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 『ドイツ宗教・哲学史考』第3巻 哲学革命 序 2. カントとロバスピエール 3. カントの『純粹理性批判』 4. いわゆるコペルニクスの転回 5. ドイツの哲学革命 6. フィヒテ哲学の主観的形式 7. 無神論論争 8. ゲーテとフィヒテ 9. シェリングの自然哲学 10. 自然哲学と汎神論 11. ヘーゲルによる自然哲学の大成 12. ドイツの政治革命への見通し <p>以上はおおまかな計画であり、若干順序と範囲が狂うことがあることをあらかじめ承知してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Zur Gesichte der Religion und Philosophie in Deutschland 『ドイツ宗教・哲学史考』 (少人数であれば、全文のコピーを配布します。)</p>		<p>授業レポートシステムを使い、毎回短いレポートを提出してもらい、最後にまとめのレポートを書いて、これを自己評価してもらい、それをもとに評価を決めます。</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(思想)	担当者	山路 朝彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「関心と認識」</p> <p>(講義目的) 我々がドイツ人の書いたものを読むとき、実は我々が意識していないさまざまな「障害」を乗り越えて「理解」している。では、そこにあるのはどのような「障害」なのか。そして、我々はどのようなメカニズムでドイツ人の書いたものを「理解」しているのか。これらの問題について考えていきたい。</p> <p>(講義概要) 多くの国で教授体験を持つミュンヘン大学教授 Dietrich Krusche のまとめたテキストを読む。このテキストは、著者自身が「解釈学的冒険(hermeneutische Abenteuer)」と呼ぶ異文化社会での教授体験からの帰結をまとめたものである。</p> <p>本来はドイツ・バイエルン放送局の科学番組”Forum der Wissenschaft” で放送され、録音もあるので、それを活用したい。</p>		<p>第 1-4 週</p> <p>1. 先行知識 —理解の条件としての文化的他異性—</p> <p>第 5-8 週</p> <p>2. 自己への関心、他者への関心</p> <p>第 9-12 週</p> <p>3. 他異性を媒介としてなされる理解</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dietrich Krusche: Kafka in Japan, Goethe am Äquator. Inter Nationes 1987		選択して受講する科目であるので、評価は厳正に行う。評価を受けるには、出席・授業中の分担・定期試験の成績において一定以上の基準を満たさなければならない。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏にはドイツやオーストリアのほかにスイスという国があることを忘れてはならない。この時間には、スイスをキーワードにして、ドイツ・オーストリアと異なるスイス文化の特徴を論じた評論を読んでみよう。</p> <p>まず、「グロテスクな」表現を用いて、鋭い現実批判を盛り込む喜劇作品を書いたスイス作家フリードリヒ・デュレンマットの対談集などを手がかりに、スイス人自身が描き出すスイス像を探りたい。</p> <p>「郷土芸術?」、「方言との関係」、「近代的芸術国家スイス」、「母国—小国」、「スイスと亡命者」、「グロテスクとしてのスイス」といった題名がさし当たってのテーマである。</p>		<p>単にドイツ語の訳読におわらず、中身をじっくり味わいながら、進んでいく。また、出席者全員で極力コミュニケーションができるような授業にしたい。</p> <p>精一杯の予習をしてから授業に出席してほしい。間違えても一向にかまわないので、とにかく自分なりに納得のいく発表をしてほしい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>>F.Dürrenmatt:Dramaturgie des Denkens<などからコピーして配布。</p> <p>参考文献は授業中に折にふれて指示する。</p>		<p>普段の授業中の発表と期末のテストまたはレポート提出などにより総合的評価をする。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	小島 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	

03 年度以降	ドイツ語講読 (思想)	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「人間を戦争という宿命から救い出す道があるのかどうか？」この物理学者アインシュタインの 1932 年 6 月 30 日付の書簡による問いかけに対して、心理学者フロイトが同年 9 月に出した返書を読む。</p>		<p>毎回テキストを 2, 3 ページずつ丁寧に読む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>フロイト著 (生松敬三編)『戦争と無常』、同学社。</p>		<p>出席、テキスト朗読と訳読、学期末試験による。</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読 (思想)	担当者	船戸 満之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準ずる。</p>		<p>春学期に準ずる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に準ずる。</p>		<p>春学期に準ずる。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
第二次世界大戦中、ミュンヘン大学の学生のショル兄妹による大学構内での反戦を謳ったビラ「白バラ」の配布により、逮捕、監禁、尋問、処刑と短日間のうちにすべてが処理された。講義では、その中心人物である兄妹等に焦点をあてながら、その事件の背景、尋問、裁判、その後の反響等を、最近の資料も含めながら講読し、平和の思想を考察していきたい。		最初に最新のドイツ映画「白バラ」を鑑賞する。その後、関連の資料等を配布しながら、事件の背景に関する文献、映画の台本、事件後の反響を扱った資料等を講読していく予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：コピーを配布。 参考文献：関楠生著『「白バラ」－反ナチ抵抗運動の学生たち』清水書院		平常点、発表及び筆記試験。	

03年度以降	ドイツ語講読（思想）	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツの基本法（日本国憲法に相当する）には「何人も良心に反して武器を使う兵役を強要してはならない」と述べられている。徴兵制のあるドイツでは、これにより18歳を迎える男子は、一定の期間兵役に就くか、または兵役を拒否して一定の期間社会施設等で仕事をするかの二者択一をすることが法律で定められている。後者は非軍事的役務と呼ばれている。そして現在のドイツの福祉社会を底辺で支えてもいる。授業では、こうした現在のドイツ社会を育んできた福祉の歴史と思想、平和の思想、及びその実践等を考察していきたい。		ドイツの非軍事的役務の歴史的な概観及び、それに社会施設等で働くドイツの若者たちに焦点をあてながら、現在の福祉のあり方を、配布資料の通読を通して観ていく。また、ドイツの障害者と健常者が共生する総合社会施設（ベートル）を映像にて紹介後、この施設の発展に尽力し、またヒトラーから障害者を守った牧師の人物像や施設の内容等の文献を講読の予定。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：コピーを配布。 参考文献：橋本 孝著『福祉の町ベートル ヒトラーから障害者を守った牧師父子の物語』五月書房		平常点、発表及び筆記試験。	

03 年度以降	ドイツ語購読 (芸術)	担当者	バイスヴェンガー・キルステン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Kurs werden verschiedene Text über Musik und Musiker (Komponisten und Interpreten) gelesen. Dabei sollen verschiedene Textsorten vorgestellt werden: biographische Texte, literarische Texte über Musik wie Märchen oder Romane (Ausschnitte), Anekdoten oder Werkbesprechungen. Anhand der Texte werden die unterschiedlichen Lesestile geübt, nämlich globales, selektives und detailliertes Lesen. Außerdem beschäftigen wir uns mit der Wortschatzarbeit und erarbeiten uns Wortfelder der Allgemeinsprache und der Fachsprache Musik.</p> <p>Die Schwerpunkte im Unterricht werden nach Absprache mit den Teilnehmern festgelegt, die folgenden Angaben gelten nur als Beispiel:</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Anekdoten 3. 4. Märchen 5. 6. über Interpreten 7. 8. 9. über Komponisten 10. 11. Werkeinführung 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden Kopien der Texteverteilt.		Regelmäßige Teilnahme und Mitarbeit. Schriftlicher Test am Ende des Semesters.	

03 年度以降	ドイツ語購読 (芸術)	担当者	バイスヴェンガー・キルステン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Kurs des Sommersemesters wird im Wintersemester fortgesetzt. Zu Inhalt und Methode siehe die Beschreibung des Sommersemesters. Eine Textauswahl als Beispiel siehe rechts, eine Auswahl der zu lesenden Texte erfolgt nach Absprache mit den Teilnehmern.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Biographische Texte 2. 3. 4. Werkeinführung 2 5. 6. Anekdoten 2 7. 8. Musikroman oder Musikererzählung (Ausschnitt) 9. 10. 11. über Komponisten 2 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Es werden Kopien der Texteverteilt.		Regelmäßige Teilnahme und Mitarbeit. Schriftlicher Test am Ende des Semesters.	

03年度以降	ドイツ語購読（芸術）	担当者	洲崎 惠三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I ドイツ語読解力をつけること。文意を把握する練習。ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。文法事項を質問し、説明する。文意を把握することが肝要。購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。その努力向上を評価する。</p> <p>II ヘーゲル『美学』入門。</p> <p>III ペーター・ションディのベルリン自由大学における講義『ヘーゲルの詩学論』を読みつつ、美とは何か、芸術とは何かを考える。エジプト、ギリシャ、近代の芸術はどこが違うのか。形式と内容、表現と意味の関係を梃子に、ヘーゲルが分けた、象徴的、古典的、ロマン的芸術（造形、美術、文学）とは何かを、追求する。</p>		<p>章立て：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術とは、自然美ではなく、アイデアの感覚的表現。 2. 芸術とは、普遍と特殊、概念と現象、無限と有限、精神と自然、自由と必然、などの弁証法的融合の試み。 3. ヘーゲル弁証法は、現実の弁証法。 4. 象徴的芸術（エジプト）、形象と意味の齟齬。 5. 古典的芸術（ギリシャ）、形象と意味の融合。 6. ロマン的芸術（近代）、形象と意味の離反。 7. 象徴（シンボル）とは何か。 8. ジャンル論（彫刻、美術、音楽、文学など） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリント配布。 Peter Szondi: <i>Hegels Lehre von der Dichtung</i> In: <i>Poetik und Geschichtsphilosophie</i> I, Suhrkamp 1974 参考文献： Hegel: <i>Vorlesungen über die Ästhetik</i> In: <i>Hegels Werke in 20 Bänden</i>, Bd13-15, Suhrkamp 長谷川宏訳、ヘーゲル『美学講義』上、中、下、作品社 洲崎惠三『神話とイロニー』結論部分、溪水社、2002年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ正確に、どれだけ多く文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤の努力の跡を評価したい。 	

03年度以降	ドイツ語購読（芸術）	担当者	洲崎 惠三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I ドイツ語読解力をつけること。文意を把握する練習。ドイツ語テキストを読み、かつ訳す。文法事項を質問し、説明する。文意を把握することが肝要。購読力をつけるため、なるべく毎回少しでもみずから試行錯誤でトライすること、すなわち練習が肝要。その努力向上を評価する。</p> <p>II オーストリアの現存作家ペーター・ハントケの『サント・ヴィクトワール山の教え』を読む。</p> <p>III エクス＝アン＝プロヴァンスからサント・ヴィクトワール山をさすらいつつ、詩人はセザンヌの描いた美に nunc stans（静止せる永遠の現在）を見出す。詩や絵画が追求するものとは何か。抽象か感情移入か？</p>		<p>章立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きなアーチ 2. 色彩の丘陵 3. 哲学者の高原 4. 桑の実の道 5. 狼の跳躍 6. 絵のなかの絵 7. 冷たい荒野 8. 独楽の丘 9. 大きな森 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントする。 Peter Handke: <i>Die Lehre der Sainte=Victoire</i> Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1980 参考文献： ペーター・ハントケ『反復』、阿部卓也訳、後書、同学社 小林秀雄『近代絵画』、新潮社、昭和33年 洲崎惠三『神話とイロニー』、nunc stans（静止せる現在）の章、溪水社、2002年</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 筆記試験：辞書持ちこみで、どれだけ多く、文を読めるか、のテスト。 2) テキストの邦訳（全訳でなくても可）提出。 3) 授業にて発表、発音、文法力、読解力をみる。 4) 試行錯誤の努力の跡を評価したい。 	

03 年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記テキストの講読を通して、1、2 年生のドイツ語基礎・応用で身につけたドイツ語文法の知識を再確認するとともに、ドイツ語で書かれたテキストへのアプローチの仕方を学ぶことを目的とする。</p> <p>基本的には、下記テキストを正確に読む作業が中心になるが、適宜関連文献（日本語の場合もあり、ドイツ語の場合もある）を紹介し、担当者を決めてその内容について報告していただく時間も設けるつもりである。</p>		<p>下記テキストを、ページを追って読んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに詳細な授業計画については、1 回目の授業時間に発表する。テキストのコピーを用意する都合もあるので、履修希望者は必ず1 回目の授業に出席するように。 テキストの訳読については、特に前もって担当者を決めておくことはしない。毎回その場で、担当者を指名する。だれが指名されてもいように、毎回全員予習をしておくこと。予習していない場合は、欠席扱いとする。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
E.W.Heine: Wer ermordete Mozart? Zürich (Diogenes) 1984. (テキストは、コピーでお渡しする)		学期末の筆記試験＋授業への参加度（テキストの訳の担当、関連文献に関する発表等）で評価する。	

03 年度以降	ドイツ語講読 (芸術)	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記テキストの講読を通して、1、2 年生のドイツ語基礎・応用で身につけたドイツ語文法の知識を再確認するとともに、ドイツ語で書かれたテキストへのアプローチの仕方を学ぶことを目的とする。</p> <p>基本的には、下記テキストを正確に読む作業が中心になるが、適宜関連文献（日本語の場合もあり、ドイツ語の場合もある）を紹介し、担当者を決めてその内容について報告していただく時間も設けるつもりである。</p>		<p>引き続き、下記テキストを、ページを追って読んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに詳細な授業計画については、1 回目の授業時間に発表する。テキストのコピーを用意する都合もあるので、履修希望者は必ず1 回目の授業に出席するように。 テキストの訳読については、特に前もって担当者を決めておくことはしない。毎回その場で、担当者を指名する。だれが指名されてもいように、毎回全員予習をしておくこと。予習していない場合は、欠席扱いとする。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
E.W.Heine: Wer ermordete Mozart? Zürich (Diogenes) 1984. (テキストは、コピーでお渡しする)		学期末の筆記試験＋授業への参加度（テキストの訳の担当、関連文献に関する発表等）で評価する。	

03 年度以降	ドイツ語購読 (芸術)	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ドイツ芸術・文化に関するドイツ語の文章を理解できるようにする。専門用語にも慣れるようにしたい。</p> <p>講義概要： ドイツの芸術様式のひとつ、Jugendstilを理解するための下記のテキストを受講者とともに読んでいく。 テキストのコピーを配布するが、コピーはカラーではないから、美術書の華麗な色彩まで味わうことは難しい。できれば受講者は原本を購入することをお勧めする。本の値段は 12,90 EURO。各人がインターネットでドイツから取り寄せることになる。</p>		<p>毎回数ページ進むつもりだが、登場する単語や述語、文法、専門用語などをわかるように解説しながら進めたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Karin Sagner 著：Wie erkenne ich? Die Kunst des Jugendstil. Besler Verlag Stuttgart 2005. ISBN:3-7630-2438-7</p>		<p>定期試験のテスト、授業中におこなう小テスト、出席状況などから評価する。</p>	

03 年度以降	ドイツ語購読 (芸術)	担当者	林部 圭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ドイツ芸術・文化に関するドイツ語の文章を理解できるようにする。専門用語にも慣れるようにしたい。</p> <p>講義概要： ドイツの芸術様式のひとつ、Jugendstilを理解するための下記のテキストを受講者とともに読んでいく。 テキストのコピーを配布するが、コピーはカラーではないから、美術書の華麗な色彩まで味わうことは難しい。できれば受講者は原本を購入することをお勧めする。本の値段は 12,90 EURO。各人がインターネットでドイツから取り寄せることになる。</p>		<p>春学期のテキストが読み終わらず、受講者に移動が無ければ、春学期のテキストを読み続けることになる。受講者と相談して、秋学期には新しいテキストを選ぶこともある。</p> <p>毎回数ページ進むつもりだが、登場する単語や述語、文法、専門用語などをわかるように解説しながら進めたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Karin Sagner 著：Wie erkenne ich? Die Kunst des Jugendstil. Besler Verlag Stuttgart 2005. ISBN:3-7630-2438-7</p>		<p>定期試験のテスト、授業中におこなう小テスト、出席状況などから評価する。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツ史概論 I ドイツ史概論 a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人物に関する知識を得ることではなく、現在の問題にどれだけ結び付けて考えられるかということです。</p> <p>春学期は、ドイツの学校では歴史の授業はどのように行われているかという点を出発点に、19世紀初頭から第一次世界大戦の終結までのドイツ史を対象に、歴史の見方を検討していきたいと思ひます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に関する説明/レポートの書き方など 2. ドイツの歴史教育/(video) 3. 歴史否定論者の主張 4. 歴史否定論者の系譜 5. 反ユダヤ主義の伝統 6. 国民国家とナショナリズム 7. 工業化と社会問題 8. 反ユダヤ主義 (反セム主義) 9. 第一次世界大戦 (video) 10. ドイツ帝国と第一次世界大戦の開戦 11. 戦争プロパガンダ 12. ドイツ革命とヴァイマル共和国の成立 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布		ただ単に講義を聴いているだけの授業は避けたいので、受講生には出来るだけ授業中に課題に答えてもらひます。評価は、課題レポートを予定してひます。	

05年度以降 03年度以降	ドイツ史概論 I ドイツ史概論 b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>歴史を学ぶにあたって重要なのは、単に過去の出来事や人物に関する知識を得ることではなく、現在の問題にどれだけ結び付けて考えられるかということです。</p> <p>秋学期は、ドイツ人の第一次世界大戦に対する認識と、実際の歴史的経緯との違いを明らかにしたうえて、ドイツ人の国家意識がナチの台頭とどのように関連していたのかを考察しひます。さらにナチ体制下での人々の動向を検討したうえて、戦後のドイツ人の歴史意識について考えて見たいと思ひます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴェルサイユ条約と戦争責任問題 2. 共和国の敵 3. ヴァイマル共和国の崩壊とヒトラー政権の誕生 4. 国民社会主義ドイツ労働者 (ナチ) 党の発展 1 5. 国民社会主義ドイツ労働者 (ナチ) 党の発展 2 (video) 6. ナチ体制下の国民 7. 受容と抵抗: 「普通の人々」 (video) 8. 受容と抵抗: 「普通の人々」 /抵抗運動 1 9. 受容と抵抗: 抵抗運動 2 10. 戦後ドイツの歴史意識: 日独比較・・・ 11. 戦後ドイツの歴史意識: 歴史教科書 12. 予備 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリント配布		ただ単に講義を聴いているだけの授業は避けたいので、受講生には出来るだけ授業中に課題に答えてもらひます。評価は、課題レポートを予定してひます。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの歴史 I ドイツの歴史 a	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ベルリン 都市とユダヤの歴史</p> <p>統一されたドイツ連邦共和国の首都に返り咲いたベルリンは歴史上どのような都市であり、どのような発展をとげてきたのか。ブランデンブルク・プロイセン時代からドイツの統一、ナチ時代を通してその発展をユダヤと絡めながらみていく。とくにその初期の時代からベルリンの発展に大きな役割を果たしたユダヤは、昨年度に見たウィーンのユダヤとは異なる役割を果たし、別個の歴史を形成する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) 都市ベルリンの形成 2) プロイセンの台頭とユダヤの役割 3) 啓蒙都市ベルリンとモーゼス・メンデルスゾーン 4) フランス革命とその後のベルリンとユダヤ 5) ドイツ統一の時代のベルリンとユダヤ 6) 戦争と革命の中のベルリン 7) ヒトラーの政権獲得 8) 反ユダヤ政策とベルリン 9) 戦後のベルリンとクロイツベルクのユダヤ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介していく		レポートまたは試験	

05年度以降 03年度以降	ドイツの歴史 II ドイツの歴史 b	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ハプスブルク帝国のユダヤの歴史</p> <p>とくにプラハ、ブダペストなどのユダヤの歴史を扱う。</p>		未定	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に紹介		未定	

05 年度以降 03 年度以降	ドイツの社会・事情 I ドイツの社会・事情 a	担当者	H.H. Gähke
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorbesprechung: Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial 2. Begriffsklärung: Staat – Volk – Nation 3. – “ - : Bündnis – Staatenbund 4. – “ - : Bundesstaat – Zentralstaat 5. Staatssymbole: Flagge – Wappen – Hymne 6. Verfassung (Grundgesetz) 7. Staatliche Grundprinzipien 8. Republik – parlamentarische Demokratie 9. Rechtsstaat – Sozialstaat 10. Föderalismus 11. Deutsche Einheitsbestrebungen (historischer Abriß) 12. Zusammenfassung, Fragestunde 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

05 年度以降 03 年度以降	ドイツの社会・事情 I ドイツの社会・事情 b	担当者	H.H. Gähke
講義目的、講義概要		授業計画	
Politisches System und staatlicher Aufbau der Bundesrepublik Deutschland, geografische und historische Grundinformationen, politische Begriffe, Verfassung und staatliche Grundprinzipien, Organisation und Funktion staatlicher Organe, Wahl- und Parteiensystem		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung der Testergebnisse, Vorbesprechung (Unterrichtsmodalitäten, Lehrmaterial) 2. Staatsorgane I: Staatsgewalt Legislative (Bundestag) 3. Staatsorgane II: Staatsgewalt Exekutive (Regierung) 4. Staatsorgane III: Staatsgewalt Judikative (Gerichte) 5. Gewaltenteilung horizontal – vertikal 6. Gesetzgebungskompetenzen des Bundes und der Länder 7. Staatsorgane IV: Bundespräsident – Bundesrat 8. Wahlsystem I 9. Wahlsystem II 10. Parteiensystem 11. Europa - BRD – Bundesländer (geografisch) 12. Zusammenfassung, Fragestunde 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material wird zum Semesterbeginn verteilt		Regelmäßige Teilnahme, aktive Mitarbeit, Test am Semesterende	

05年度以降 03年度以降	ドイツの地誌・民俗 I ドイツの地誌・民俗 a	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ドイツ、スイス、オーストリアの地理について、基礎的な知識を習得することを目的とする。</p> <p>各国の自然環境、産業、都市に焦点を当てて概観するとともに、ドイツ統一やヨーロッパ統合がドイツ語圏諸国の地域構造に及ぼす影響についても把握する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツ語圏諸国とヨーロッパ 2. ドイツの地理（1）自然環境 3. （2）産業 4. （3）都市 5. ドイツ統一と地域構造の変化 6. スイスの地理（1）自然環境 7. （2）産業 8. （3）都市 9. オーストリアの地理（1）自然環境 10. （2）産業 11. （3）都市 12. ヨーロッパ統合とドイツ語圏諸国 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。</p>		<p>レポートもしくは試験により評価。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの地誌・民俗 I ドイツの地誌・民俗 a	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ライン川は、スイス・アルプスに源を發し、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランスを経てオランダで北海に注ぐヨーロッパを代表する国際河川である。古くからライン川はヨーロッパの南北交通の大動脈として機能しており、その流域には多くの都市が發展した。本講義では、ドイツ人が「父なるライン」と呼ぶライン川の流れに沿って、流域の各都市の特性を明らかにしながら受講者とともに旅をしていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ライン川の地理：導入 2. Alpenrhein：アルプスの山村 3. Hochrhein：ボーデン湖とコンスタンツ 4. Oberrhein：バーゼルの産業 5. Oberrhein：環境の街フライブルク 6. Oberrhein：アルザス地方 7. Mittelrhein：ローレライと古城 8. Mittelrhein：コブレンツとモーゼル川 9. Niederrhein：ボンとケルン 10. Niederrhein：ロッテルダムとユーロポート 11. 国際河川ライン川の環境保全 12. ライン川流域空間 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 テキストは指定しない。 授業中に資料を配布する。</p>		<p>レポートもしくは試験により評価。</p>	

05年度以降 03年度以降	ドイツの政治・対外関係Ⅰ ドイツの政治・対外関係 a	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の講義では、ドイツ語圏諸国（ドイツ、オーストリア、スイス）の「政治・選挙・行政システム」、「代表的諸政党」の特質を比較検討します。</p> <p>政治と言うと何やら堅いイメージをもつかもしませんが、この授業では補助教材やビデオ資料を駆使して、わかりやすい講義の実現につとめます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 年間計画、講義目標、評価方法等についての説明 2 ドイツ連邦共和国の政治・選挙・行政システム 3 オーストリア・スイスの政治・選挙・行政システム 4 諸政党の歴史と現状:ドイツの社会民主主義政党(1) 5 諸政党の歴史と現状:オーストリアの社会民主主義政党(2) 6 諸政党の歴史と現状:ドイツの保守政党(1) 7 諸政党の歴史と現状:オーストリアの保守政党(2) 8 諸政党の歴史と現状:ドイツ・オーストリアの環境保護政党 9 諸政党の歴史と現状:ドイツ自由民主党・左翼党 10 諸政党の歴史と現状:ドイツの極右政党とネオナチ勢力 11 諸政党の歴史と現状:オーストリア・スイスの極右政党 12 前期のまとめ(予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献表、講義レジュメを配布します。		学期末に筆記試験を実施します。なお、出席は原則として毎回チェックします。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの政治・対外関係Ⅱ ドイツの政治・対外関係 b	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、ドイツ、オーストリアの戦後政治の流れを、「国際関係」という枠組みのなかで考察していきます。</p> <p>春学期・秋学期ともテーマによっては日本の事例との比較を行う予定です。参加者は日頃から新聞を読む習慣をつけておくようにして下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 連合国の戦後構想とドイツの敗戦(1) 2 連合国の戦後構想とドイツの敗戦(2) 3 占領の比較研究(1):ドイツにおける戦後変革の諸相 4 占領の比較研究(2):日本における戦後変革の諸相 5 欧州冷戦と分断国家の成立(1) 6 欧州冷戦と分断国家の成立(2) 7 永世中立国オーストリアの誕生 8 「ベルリンの壁」建設と東ドイツの苦悩 9 ブラント政権からコール政権まで:再統一への道程(1) 10 ブラント政権からコール政権まで:再統一への道程(2) 11 欧州連合と21世紀のドイツ(シュレーダー政権からメルケル政権へ) 12 後期のまとめ(予備日) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献表、講義レジュメを配布します。		学期末に筆記試験を実施します。なお、出席は原則として毎回チェックします。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの経済 I ドイツの経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通年での目標： 今日のドイツ経済・社会システムは「社会的市場経済」と特徴付けられており、アメリカやイギリスなどのアングロサクソンの市場経済のあり方とは異なる、高度に制度化された市場経済のあり方を示している。こうしたドイツ固有のあり方を理解することが第一の目標である。経済のグローバル化と EU 統合によってドイツの伝統的な制度的特徴は変化しつつある。現代ドイツの経済・社会システムがかかえる問題の検討を通じてドイツの将来展望について考察すること、これが第二の目標である。</p> <p>具体的には、テーマごとに日本のあり方を念頭に置きながらドイツのあり方の特徴を考えていきたい。テーマごとに、現在進行形のことごとについても扱っていく。</p> <p>ドイツやヨーロッパを見ることによって、日本社会のあり方や個人の人々の進路についても考えられるような授業にしたいと考えている</p> <p>春学期の内容： 春学期には身近な領域から出発する。学校教育・職業教育、就職、雇用のあり方などをテーマとして取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育 2. 大学教育 3. 職業教育 4. 就職と資格 5. 雇用システムの特徴（日本とドイツ） 6. 雇用システムの変容（日本とドイツ） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。その都度、参考文献を紹介する。		授業での取り組み、出席、期末レポートの総合評価	

05年度以降 03年度以降	ドイツの経済 II ドイツの経済 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>全体の目的および概要については上記参照。</p> <p>秋学期には、春学期で扱ったテーマを受けて、さらに視野を広げてドイツの社会・経済の広範な領域を扱っていく。最初に、雇用と密接に関わる問題群（少子化、仕事と家庭の両立、失業問題、東ドイツ問題、外国人労働問題）などを扱うが、これに関わる政策領域（社会政策・労働政策）も触れていく。さらに企業や産業について扱う。これらを踏まえて国家レベルの経済政策、さらにはグローバル化のなかでのドイツの問題を考えていく。</p> <p>それぞれ日独比較を意識しながら講義を進めて生きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化問題 2. 仕事と家庭の両立、男女共同参画 3. 失業問題 4. 東ドイツの経済問題 5. 外国人労働問題 6. 企業統治の日独比較 7. 産業組織の日独比較 8. 経済政策——ドイツにおける新自由主義 9. グローバル化のなかのドイツ社会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。その都度、参考文献を紹介する。		授業での取り組み、出席状況、期末レポートの総合評価	

05年度以降 03年度以降	ドイツの法律 I ドイツの法律 a	担当者	滝沢 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わが国の法制度は、西欧諸国の法制度、特に、ドイツ法及びアメリカ法の影響を強く受けながら、発達してきました。そのため、わが国の法制度の基礎となった外国の法制度を展望することは、わが国の法制度の理解や解釈に役立ったり、わが国の法制度において解決できない問題点を解決する指針を与えることもあります。</p> <p>その一方で、法制度は、社会から浮遊したものではなく、その社会のあり方と密接に結びついています。そのため、ドイツの法制度を理解することは、ドイツの社会及び文化の理解につながることもあると思われます。</p> <p>そこで、本講義では、履修者がドイツの法制度、社会あるいは文化に興味があることを前提として、わが国の法制度と比較しながら、ドイツの法制度、社会及び文化の特徴、両国に共通する法的な問題点をいくつか選び出し、それらの解決策を模索したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ連邦共和国 (Bundesrepublik Deutschland) 3. ボン基本法 連邦制度 (Bundessystem) 4. ボン基本法 連邦機関 (Bundesorgan) 5. ボン基本法 基本権 (Grundrechte) 6. 民事法 (民法、商法) の特徴 7. 刑事法 (刑法) の特徴 8. ドイツ法のヨーロッパ法化 (Europäisierung des deutschen Rechts) 9. 司法制度 (I) 10. 司法制度 (II) 11. ナチスと司法 (I) Weisse Rose 12. ナチスと司法 (II) Weisse Rose 	
テキスト、参考文献		評価方法	
村上淳一＝守矢健一／ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門』改訂第6版 (有斐閣、2005年)		受講生の構成により、評価方法を決めますので (現時点では、出席、報告、レポート及び小テストを予定)、必ず、初回の授業に出席してください。	

05年度以降 03年度以降	ドイツの法律 II ドイツの法律 b	担当者	宗田 貴行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目的]</p> <p>わが国の法体系は、ドイツの法律を参考にしたところが大きいため、わが国の法律を理解するためにはドイツ法の理解が大いに助けになります。卒業後に民間の企業の法務部や営業部などで働くことを考えている学生に対して、どのようなマーケティング方法が法に触れるものであるのかについて理解できるように、ドイツを中心とした世界の諸国の不招請勧誘規制、特に迷惑メール規制に関する知識を提供することを目的としています。</p> <p>[講義の概要]</p> <p>まず、不招請勧誘とはなにか、とくに迷惑メールとは何かについて、拙著を使って、OECDやEUの報告書や、わが国の総務省や経済産業省や内閣府の報告書をもとに説明します。次に、これらの報告書や判例等を参考にして、日本の不招請勧誘に対する法的規制を説明します。さらに、諸外国すなわち、アメリカ、EU諸国などの不招請勧誘に対する法的規制を説明した上で、ドイツの法的規制を説明します。最後に、わが国の不招請勧誘に対する法規制の今後の課題を説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ドイツ法への招待・ドイツ法の調べ方 2 不招請勧誘規制・迷惑メール規制とは 3 日本の規制① 4 日本の規制② 5 アメリカ・EUの規制 6 ドイツ以外のEU諸国の規制 7 ドイツの規制① 8 ドイツの規制② 9 ドイツの規制③ 10 世界の最新の展開 11 日本の課題 12 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宗田貴行『迷惑メール規制法概説』レクシスネクシス・ジャパン (雄松堂出版) 2006年。各自購入してください。		出席を重視します。出席状況とレポートで成績を決めます。	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Es sollen verschiedene deutsche Texte über die deutsche Geschichte gelesen werden. Es sind leichte, kurze, gut verständliche Texte ganz verschiedener Sorten: Zeitung, Zeitschrift, Internet, Lehrbuch, usw. Im Unterricht sprechen wir (im Prinzip) auf Deutsch über die Form und den Inhalt der Texte.</p> <p>Wichtig ist die Bereitschaft zu aktiver Mitarbeit.</p>		<p>初回の授業で希望を聞いて決めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーの配布をします。</p>		<p>出席、小発表、レポートなど</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	A.ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上</p>		<p>同上</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上</p>		<p>同上</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去のドイツにも、今日のトルコ人に比すべき多数の民族的少数派を抱えていた時代があった。第二帝政期のポーランド人である。この人々は、18 世紀末、プロイセン、オーストリア、ロシアの三国によって祖国ポーランドが分割された結果、プロイセン国籍を得た人々である。やがてプロイセンがドイツを統一することによって、この人々はさらにドイツ国籍を取得することになった。いわば自動的にドイツ国籍を得たという点において、今日のトルコ人とは異なっているが、一種の二級市民として政治的・社会的差別を受けながら、さまざまな組織や団体を設立し、民族運動を展開していった点は共通している。</p> <p>ドイツのポーランド人の歴史を知ることは、ドイツの知られざる過去の歴史を知るのみならず、もし、ある社会の移民や外国人に対する態度が長い時の経過を経ても容易に変わらないものであるとするならば(エマニュエル・トッド)、今日のトルコ人の運命を占う上でも参考になるに違いない。</p>		<p>1 講義 2~12 テキストを読む</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>伊藤定良『異教と故郷』(東京大学出版会、1987) 伊藤定良『ドイツの長い 19 世紀』(青木書店、2002)</p>		<p>学期末の筆記試験の成績による</p>	

03 年度以降	ドイツ語講読(歴史)	担当者	井村 行子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2004 年 7 月、ドイツ連邦共和国では懸案の移民法が成立した。この法律は 2005 年 1 月 1 日から施行され、従来の「滞在法」や「移動の自由に関する法」に取って代わる意味合いをもつが、同時に、外国人にドイツ語学習を中心とする「統合コース」への参加を義務づけたり、テロ容疑者の予防拘禁を合法化するなど人権上の問題点をも含んでいる。</p> <p>今回の移民法が、<i>Zuwanderungsgesetz</i> と名づけられているのも何やら不吉な連想を誘う。第二帝政期のドイツは「ドイツは移民国家ではない」と公言しつつ、実際には隣国ロシアやオーストリアから多数のポーランド人労働者を受け入れていた。そのときに用いられたのが、この言葉 <i>Zuwanderung</i> である。</p> <p>フランスと並んでヨーロッパの人権大国とされるドイツは、移民や外国人の人権をどのように考え、これからどこへ進もうとしているのか。移民法の実際の適用を参考にこの問いに対する手がかりを探りたい。</p>		<p>1 講義 2~12 テキストを読む</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>内藤正典『アッラーのヨーロッパ』(東京大学出版会、1996) 内藤正典『ヨーロッパとイスラーム』岩波新書(2004)</p>		<p>学期末の筆記試験の成績による</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツおよびオーストリアの歴史に関する文献を読んでいく。		辞書を調べてドイツ語の訳を作っていくだけではなく、随時内容について調べていく。そのことによって、「ドイツ語を読む」から「ドイツ語で読む」レベルを目指す。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布		出席、発表、試験その他による。	

03年度以降	ドイツ語講読（歴史）	担当者	増谷 英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツおよびオーストリアの歴史に関する文献を読んでいく。		辞書を調べてドイツ語の訳を作っていくだけではなく、随時内容について調べていく。そのことによって、「ドイツ語を読む」から「ドイツ語で読む」レベルを目指す。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布		出席、発表、試験その他による。	

03 年度以降	ドイツ語講読 (社会)	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziele des Unterrichts: Erwerb von Lesestrategien Wortschatzerweiterung Argumentation		In diesem Unterricht werden aktuelle Texte bearbeitet zu Themen wie beispielsweise Arbeit und Arbeitslosigkeit, Analphabetentum, Auslaender, Immigration, Studium, Studiengebuehren, Sport, Mode etc. Die Themen werden (unter Berücksichtigung möglichst aller Wünsche) in Absprache mit den Teilnehmern in der ersten Stunde festgelegt.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt		Regelmässige Teilnahme und aktive Mitarbeit; Hausaufgaben; schriftlicher und/oder mündlicher Test am Semesterende	

03 年度以降	ドイツ語講読 (社会)	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
Ziele des Unterrichts: Erwerb von Lesestrategien Wortschatzerweiterung Argumentation		Siehe oben!	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kopien, werden im Unterricht verteilt		Regelmässige Teilnahme und aktive Mitarbeit; Hausaufgaben; schriftlicher und/oder mündlicher Test am Semesterende	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	古田善文
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、現代ヨーロッパや現代ドイツ社会を理解するために参考となる論説を、ドイツの代表的な新聞や雑誌から抜粋して読んでいく予定です。		ドイツの代表的週刊誌『シュピーゲル (Der Spiegel)』や、月刊誌『ツィツェロー (Cicero)』から適当な論説を抜き出し、解説を加えながら読み進めていきます。具体的教材は、初回に受講生の意見をまじえて複数の候補から選択・決定しますが、さしあたり春学期は、「EU (欧州連合)」、「ヨーロッパ (ドイツ) の外国人問題」、「ヨーロッパ (ドイツ) のイスラム」などを主要なキーワードに設定し、勉強をすすめていく予定です。必要に応じて、対象テーマについての予備講義や、受講生による小発表なども随時実施する予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材・資料コピーを配布します。		学期末に筆記試験を行いません。出席と授業への貢献度もあわせて総合的に評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	古田善文
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様、現代ヨーロッパや現代ドイツ社会を理解するために参考となる論説をドイツの代表的な新聞や雑誌から抜粋して読んでいく予定です。		春学期とは少し視点をかえて、ドイツ国内の社会問題に注目します。具体的には、受講生との話し合いにより決定しますが、いまのところ多様な「ドイツの社会問題 (失業、年金、環境、教育、少子化)」についての新聞・雑誌記事を教材にする予定です。春学期と同じく、必要に応じて、対象テーマについての予備講義や、受講生による小発表なども随時実施する予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教材・資料コピーを配布します。		学期末に筆記試験を行いません。出席と授業への貢献度もあわせて総合的に評価します。	

03年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヘルムート・シュミット（旧西ドイツの連邦首相）の論文『グローバル化』（Globalisierung：Politische, ökonomische und kulturelle Herausforderungen 1999）の原典講読を通じて、真の意味における国際化とは何かを政治的・経済的・文化的次元から考察して行きたい。</p> <p>比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 以下は『グローバル化』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。	

03年度以降	ドイツ語講読(社会)	担当者	辻本勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続いて、ヘルムート・シュミットの上記の論文『グローバル化』の原典講読を通じて、真の意味における国際化とは何かを政治的・経済的・文化的次元から考察して行きたい。</p> <p>比較的平易なドイツ語で書かれているので、文法の基礎的な知識と辞書を丹念に引くという人並みの根気さえあれば、文章理解の上で支障をきたす恐れは全然ありません。後は読解力の飛躍的な向上をひたすらめざすのみです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 以下は『グローバル化』の原典講読につき、略す。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の書を購入するのが望ましいが、一応原典講読に必要な部分のみプリント配布する。		出席状況と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえで、筆記試験の成績で評価する。100点満点中10点を出席点とする。	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、ドイツの各地域や各都市の特性とそれが抱える諸問題について、さまざまな種類のドイツ語文献の熟読を通じて把握することを目的とする。また、ドイツ語の文献や資料の収集方法の習得も目的としている。</p> <p>本講義で取り上げる都市は、ベルリン、ミュンヘン、ハンブルク、フランクフルト、ドレスデン、フライブルク、ルール工業地帯等を予定している。</p>		<p>授業では、以下の文献を利用する。また、地図や統計等も活用し、それらの収集方法についても提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツの大学学部レベルの教科書 2. 新聞、雑誌記事 3. インターネットで公開されている各都市のHP 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 授業中に資料を配布する。</p>		<p>小テスト、レポート、試験等の結果から総合的に判断する。</p>	

03年度以降	ドイツ語講読（社会）	担当者	飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中央集権型国家システムのもと、東京への一極集中が激化しているわが国とは異なり、連邦制国家であるドイツは、多極分散型国家システムを形成している。ドイツでは、多極分散型の国土を形成するために、他の先進諸国と比較すると一種独特な思想・手法を有する地域政策や都市政策が実施されてきた。本講義では、ドイツの地域政策や都市政策に関するドイツ語文献の読解を通じて、その特性と課題を明らかにするとともに、基本的な概念や用語を習得する。</p>		<p>授業では、以下の文献を利用する。また、地図や統計等も活用し、それらの収集方法についても提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. ドイツの大学学部レベルの教科書 5. 新聞、雑誌記事 6. インターネットで公開されている連邦、州、市町村の各政策の内容 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>地図帳を毎回持参すること。 授業中に資料を配布する。</p>		<p>小テスト、レポート、試験等の結果から総合的に判断する。</p>	

03 年度以降	卒業論文（卒論指導）	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>4 年間の勉強の総仕上げとしての卒論を充実させ、形式的にも内容面でもしっかりした卒論が提出できるようにします。</p> <p>1. まとまった量の論文を書くためには、それに応じたストラテジーが必要です。そのために必要な基本的な考え方や実践法を学びます。</p> <p>2. 論文作成においては、個々人の研究・作業はもとより、主査および「卒論指導」担当教員や参加学生同士の対話も重要な要素です。分野を越えた対話を通して、お互いに刺激し合い、卒論のレベル向上を目指します。</p> <p>3. 基礎演習・専門演習で培ってきた社会に出てからも必要になる企画力・研究調査力・プレゼンテーション能力などの、大学レベルでの総仕上げを目指します。</p> <p>*注意* 提出までに指導教員と綿密に打ち合わせをすること、さらにはこの授業に定期的に参加することが評価の前提になります。論文の内容もさることながら、これらをクリアしていない場合には、評価の対象とならないこともあります。</p>		<p>第 1 回 導入</p> <p>第 2 回 卒論の基本的なリテラシー</p> <p>第 3 回 論文題目提出のための準備 1</p> <p>第 4 回 論文題目提出のための準備 2</p> <p>第 5 回 文献目録の作成</p> <p>第 6 回 卒論作成のためのストラテジー 1</p> <p>第 7 回 卒論作成のためのストラテジー 2</p> <p>第 8 回 卒論作成のためのストラテジー 3</p> <p>第 9 回 卒論作成のためのストラテジー 4</p> <p>第 10～12 回 中間報告会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示します。		卒業論文の評価と連動して評価されます。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮されます。卒論が提出されない場合、この授業の評価は F となります。	

03 年度以降	卒業論文（卒論指導）	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の記述を参照。</p>		<p>第 1 回 夏休みの成果報告、レポート返却</p> <p>第 2 回 論文の日本語 1</p> <p>第 3 回 論文の日本語 2</p> <p>第 4 回 論文の日本語 3</p> <p>第 5 回 要約のためのドイツ語 1</p> <p>第 6 回 要約のためのドイツ語 2</p> <p>第 7 回 要約のためのドイツ語 3</p> <p>第 8 回 要約のためのドイツ語 4</p> <p>第 9～12 回 口頭試問</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて指示します。		卒業論文の評価と連動して評価されます。なお、卒業論文の評価においては、この授業への参加および主査との話し合いの程度、中間報告、提出後の口頭試問の結果がともに考慮されます。卒論が提出されない場合、この授業の評価は F となります。	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	B. K. カートル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. Course Description: This is <u>the first half</u> of a basic English communication course that will develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress.</p> <p>2. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities.</p> <p>3. Classroom Management: Student attendance and participation are <u>very</u> important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc.</p> <p>4. Textbooks: Students <u>must</u> bring a textbook and workbook on the very first day of class.</p> <p>5. Contact: The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.</p>		<p>Week 1 – Lesson 1: Unit 1 Workbook 1</p> <p>Week 2 – Lesson 2: Unit 1 Test</p> <p>Week 3 – Lesson 3: Unit 2 Workbook 2</p> <p>Week 4 – Lesson 4: Unit 2 Test</p> <p>Week 5 – Lesson 5: Unit 3 Workbook 3</p> <p>Week 6 – Lesson 6: Unit 3 Test</p> <p>Week 7 – Lesson 7: Unit 4 Workbook 4</p> <p>Week 8 – Lesson 8: Unit 4 Test</p> <p>Week 9 – Lesson 9: Unit 5 Workbook 5</p> <p>Week 10 – Lesson 10: Unit 5 Test</p> <p>Week 11 – Lesson 11: Unit 6 Workbook 6</p> <p>Week 12 – Lesson 12: Unit 6 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS</i> (ISBN 9789620058141)</p> <p><i>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS WORKBOOK</i> (ISBN 9789620058165)</p>		<p>Attendance & Participation: 50%</p> <p>Tests: 30%</p> <p>Workbook Assignments: 20%</p>	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	B. K. カートル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. Course Description: This is <u>the second half</u> of a basic English communication course that will continue to develop communication skills. Various topics will be discussed and students will have the opportunity to communicate and express personal opinions through fun activities. Six communication tests and six workbook assignments will be used to assess student progress.</p> <p>2. Course Objectives: At the end of this course, students should be able to apply speaking and listening skills to communicate in English. In addition, students should have greater confidence in their English language abilities.</p> <p>3. Classroom Management: Student attendance and participation are <u>very</u> important. Students more than 15 minutes late will be considered absent, except in unavoidable situations, such as train/bus delays, accidents, illness, etc.</p> <p>4. Textbooks: Students <u>must</u> bring a textbook and workbook on the very first day of class.</p> <p>5. Contact: The instructor is happy to talk with and help students outside of class at Dokkyo.</p>		<p>Week 1 – Lesson 1: Unit 7 Workbook 7</p> <p>Week 2 – Lesson 2: Unit 7 Test</p> <p>Week 3 – Lesson 3: Unit 8 Workbook 8</p> <p>Week 4 – Lesson 4: Unit 8 Test</p> <p>Week 5 – Lesson 5: Unit 9 Workbook 9</p> <p>Week 6 – Lesson 6: Unit 9 Test</p> <p>Week 7 – Lesson 7: Unit 10 Workbook 10</p> <p>Week 8 – Lesson 8: Unit 10 Test</p> <p>Week 9 – Lesson 9: Unit 11 Workbook 11</p> <p>Week 10 – Lesson 10: Unit 11 Test</p> <p>Week 11 – Lesson 11: Unit 12 Workbook 12</p> <p>Week 12 – Lesson 12: Unit 12 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS</i> (ISBN 9789620058141)</p> <p><i>ENGLISH FIRSHAND SUCCESS WORKBOOK</i> (ISBN 9789620058165)</p>		<p>Attendance & Participation: 50%</p> <p>Tests: 30%</p> <p>Workbook Assignments: 20%</p>	

02年度以前	英語（上級）	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Course Goals This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills.</p> <p>Skill Objectives By the end of the course, students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Talk about themselves comfortably and ask others about themselves • Respond appropriately to various situations • Ask for clarification when they don't understand • Express themselves clearly in short conversations <p>Activities and Coursework Activities will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Role plays • Small group and class discussion • Making and viewing conversation videos 		<p>Schedule Below is a tentative schedule for the Spring Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher.</p> <p>Week 1: Orientation – Course overview, meet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Self-introductions • Introducing friends and colleagues • Family • Sports and hobbies • Food • Part-time jobs <p>Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. ※出席方針: 欠席が3回を超えると単位を認めない。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Course Goals The course will continue as begun in the Spring Semester. This course aims to build students' confidence in their listening and speaking ability while also giving them strategies to improve communication skills.</p> <p>Skill Objectives By the end of the course, students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Talk about themselves comfortably and ask others about themselves • Respond appropriately to various situations • Ask for clarification when they don't understand • Express themselves clearly in short conversations <p>Activities and Coursework Activities will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Role plays • Small group and class discussion • Making and viewing conversation videos 		<p>Schedule Below is a tentative schedule for the Fall Semester. This schedule may change according to the needs of the students or the teacher.</p> <p>Week 1: Orientation – Term overview, greet classmates Weeks 2-10: Examine conversation strategies and discuss various common topics including:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Friends • School • Music • Dating • Travel • Future plans <p>Week 11: Review Week 12: Final conversations and Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced on the first day of class.		Students will be graded on class participation, homework, quizzes and a final project. ※ Attendance is required. ※出席方針: 欠席が3回を超えると単位を認めない。	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability.</p> <p>Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <p>Lesson 1 – Course explanation and self-introductions</p> <p>Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal</p> <p>Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 11 – End of term conversation test + test journal</p> <p>Lesson 12 – Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced in the first class.		<p>This is a guide. This may change.</p> <p>Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15% ; Conversation test reflection journals 15% ; Conversation tests 30%</p>	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	J. スティベンソン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on building your confidence as well as your speaking ability. We will think about the techniques that good speakers and listeners use, and you will practice using some of those techniques each week. You will also learn ways that you can practice on your own to improve your speaking ability.</p> <p>Reflection is an important part of this class. In addition to writing your comments about the lesson in a journal each week, you will also watch videos of your conversations and think about what you are doing well and what areas you could improve in.</p> <p>To get a good grade in this class, you need to come to class regularly and be active in class. You also need to submit a reflection journal each week, and to do your best in 2 speaking tests and class quizzes.</p>		<p>This is a guide. The schedule may change.</p> <p>Lesson 1 – Course explanation and self-introductions</p> <p>Lessons 2-5 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 6 – Midterm conversation test + test journal</p> <p>Lessons 7-10 – Textbook and conversation practice</p> <p>Lesson 11 – End of term conversation test + test journal</p> <p>Lesson 12 – Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced in the first class.		<p>This is a guide. This may change.</p> <p>Attendance 15%; Class participation 15%; Lesson reflection journals 10%; Quizzes 15% ; Conversation test reflection journals 15% ; Conversation tests 30%</p>	

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で説明する。		初回の授業で説明する。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. ミルティアダス												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>Welcome Everyone,</p> <p>In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term (Year). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills.</p> <p>Course Outline</p> <p>In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave. ■ No Telephones. ■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class. ■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. Don't be late in handing them to me. <p>The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.</p>		<p>Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline</p> <p>Lesson 2: Personal information Classroom Expressions</p> <p>Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour</p> <p>Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence</p> <p>Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvantages of certain customs in new countries</p> <p>Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems</p> <p>Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking</p> <p>Lesson 8:Unit 8 Using Transitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems</p> <p>Lesson 9:Unit 10 Identifying opinions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics)</p> <p>Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations</p> <p>Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation</p> <p>Lesson 12 Presentations</p>													
テキスト、参考文献		評価方法													
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria		<p>Grading The students will be graded on four criteria</p> <table border="0"> <tr> <td>These be</td> <td>1)Attendance</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2) Homework</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3) A test on the skills of at the end of the Term/Year</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom</td> <td>25%</td> </tr> </table>		These be	1)Attendance	25%		2) Homework	20%		3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%		4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%
These be	1)Attendance	25%													
	2) Homework	20%													
	3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%													
	4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%													

02年度以前	英語（上級）	担当者	M. ミルティアダス												
講義目的、講義概要		授業計画													
<p>Welcome Everyone,</p> <p>In this class we are going to do a variety of activities throughout the Term (Year). All the activities are going to be based on the idea of exploring varies Topics and using all four skills.</p> <p>Course Outline</p> <p>In this class there are few rules that you must follow they are very simple. They are as follows: - If you are 15 minutes late you are considered absent</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ When you come in late do not make a noise or speak to your Friends. If you do then you will have to leave. ■ No Telephones. ■ When Homework is given, you must do it, as it is part of your final mark. It also necessary for an activity in the class. ■ During the Year there are going to be various activities that have to be completed by a specific dated. Don't be late in handing them to me. <p>The course involves a comprehensive look at the skills and approaches that help a listener tackle a passage. In the course we will tackle the various approaches to listening.</p>		<p>Lesson 1: Classroom English Students complete introduce themselves Semester outline</p> <p>Lesson 2: Personal information Classroom Expressions</p> <p>Lesson 3:Unit 7 Make predictions about visual prompts Infer word meaning from context Connect actions with behaviour</p> <p>Lesson 4:Unit 7 Taking notes from a lecture Integrate information and personal values Group discussion about what is intelligence</p> <p>Lesson 5: Unit 9 Compare cultural norms and how they differ in different countries Advantages and Disadvantages of certain customs in new countries</p> <p>Lesson 6: Unit 9 Listening for Opinions and identifying different views Give impromptu presentation using own ideas,support. Propose solutions to cultural problems</p> <p>Lesson 7: Unit 8 Make predictions Identify speaker's tone and emotions Note taking</p> <p>Lesson 8:Unit 8 Using Transitions and sequences Explaining Cause and Effect of actions of present generation Provide solutions to problems</p> <p>Lesson 9:Unit 10 Identifying opinions and supporting ideas Express and defend opinions(with facts,statistics)</p> <p>Lesson 10:Unit 10 Relate other's view to personal opinion Conducte a debate about present problem with technology Summarize observations on how to handle different situations</p> <p>Lesson 11: Review Choose theme for mid-term Presentation</p> <p>Lesson 12 Presentations</p>													
テキスト、参考文献		評価方法													
NorthStar-High IntetmediateListening and Speaking Longman- Ferre/Sanabria		<p>Grading The students will be graded on four criteria</p> <table border="0"> <tr> <td>These be</td> <td>1)Attendance</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2) Homework</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3) A test on the skills of at the end of the Term/Year</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom</td> <td>25%</td> </tr> </table>		These be	1)Attendance	25%		2) Homework	20%		3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%		4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%
These be	1)Attendance	25%													
	2) Homework	20%													
	3) A test on the skills of at the end of the Term/Year	30%													
	4) Attitude in class, that is willingness to co-operate with tasks in the Classroom	25%													

02年度以前	英語（上級）	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文法の基礎に立ち返りながら、英作の訓練を行う。</p> <p>英作は、英語講読と比べ、訓練に費やされる時間がより少ない傾向があるため、講読より習熟度の上で数段劣っているものと思われる。講読できる英語のレベルにまで、英作の英語を一步でも近づけようというのが、この授業の目的である。</p> <p>文法の項目別に、単元が組み立てられているテキストを使用するため、基本英文法のおさらいを希望する学生や、非常に単純な構造の文から再度英作に挑みたいと望む学生には、要望に沿った講義となるはずである。</p> <p>講義と言ったが、実際の授業は学生による英作の実践作業が中心となる。但し、テクノロジーの急速な進歩を鑑み、手書きで英語を作るのはもはや旧式であるため、パソコンのワードにキーボードで打ち込んで英作を行ってもらいやり方を取る。それをプリントアウトして、毎回提出して頂く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Be 動詞と一般動詞 2. 否定文 3. 疑問文 4. 助動詞 5. 第1文型と第2文型 6. 第3文型と第4文型 7. 進行形 8. 受動態 9. 第5文型（知覚、認識など） 10. 第5文型（使役、許可、願望など） 11. 完了形 	
テキスト、参考文献		評価方法	
First Voyage 木村啓子他著 南雲堂		平常点重視（全体の30%以上） あとは定期試験で最終成績を出す	

02年度以前	英語（上級）	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 12. 動名詞 13. 不定詞1 14. 不定詞2 15. 分詞 16. 名詞節と副詞節 17. 分詞構文 18. 関係代名詞 19. 関係副詞 20. 比較1 21. 比較2 22. 仮定法 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を書く訓練を積んでもらう授業です。英語を書くことに慣れていない人がほとんどだと思いますが、そのような学生のための授業です。「書ける」ということは、本当にその言語の本質をつかんでいて始めて出来ることですから、「書く」という作業は、実は「読む」・「読める」ということと密接な関係があります。読むためには書けなければいけないし、書くためにはよく読めなければいけません。</p> <p>難しい理屈はさて置いて、実践を中心とするこの英作の講義は、単純な構造の英語から始まって、徐々に少しずつ複雑な英語を作れるようになることを目指す講義です。</p> <p>皆さんに実際に英語を作ってもらうことが授業の大部分を占めますが、手書きではなく、パソコンのワードを使用してキーボードで入力して頂く手法を取ります。</p> <p>単純な文章であってもともかく英語での自己表現の願望を持つ方、読む力をもう一歩前進させたいと思っている方、忘れた英文法の知識を蘇らせたい方、歓迎いたします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 単語・品詞 2. 文の成分 3. 名詞・代名詞 4. 動詞 5. 時制 6. 形容詞 1. 副詞 1 7. 形容詞 2・副詞 2・感嘆文 8. 比較 9. 接続詞・前置詞 10. 助動詞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fundamental Grammar and Vocabulary 角岡賢一他著 成美堂		平常点を重視します（全体の30%以上） それと定期試験の結果で最終成績を出します	

02 年度以前	英語（上級）	担当者	笠原 誠也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 11. 否定文・疑問文 12. 不定詞 13. 分詞 14. 動名詞 15. 現在完了・過去完了 16. 受動態 17. 関係代名詞 1 18. 関係代名詞 2・関係副詞 19. 語法・仮定法 20. 構文 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

02年度以前	英語（上級）	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アカデミックライティングの基礎となるパラグラフライティングについての基本的な概念を、できるだけ多くの英文にふれたり、実際に書く練習を積むことにより体得するようにします。また、アイデアをまとめること、下書き、改訂、校正といった英文を書くために必要とされる一連の過程についても、活動を行ったり、実際に英文を書いていく中で身につけていくようにします。クラスメートがお互いに書いた英文の下書きを読み合う中で、自分のパラグラフのみならず、他のクラスメートのパラグラフを評価する視点も学ぶようにします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Paragraph Format 3. Narrative Paragraphs 4. Paragraph Structure 5. Review I 6. Descriptive Paragraphs 7. Logical Division of Ideas 8. Process Paragraphs 9. Review II 10. Comparison/Contrast Paragraphs 11. Definition Paragraphs 12. Review III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Introduction to Academic Writing (Longman)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	菊池 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に学んだパラグラフライティングの知識をもとに、エッセイライティングへと発展させていくことを目標とします。基本的な概念を学んだ後に、テーマを決め、クラスプロジェクトとしてエッセイにまとめていきます。ペアワーク、グループディスカッション、基本図書の読解等、直接書くことと異なる活動も含まれることもあります。書くまでにいたる過程の活動として重視します。</p> <p>また、学期の半ばと終わりに各学生が独自にテーマを決めてリサーチを行い、その結果をエッセイにまとめ、それに関するパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行うことにより、発表能力の向上を図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Essay Organization I 3. Essay Organization II 4. Opinion Essays I 5. Opinion Essays II 6. Class Project I 7. Presentation I 8. Class Project II 9. Class Project III 10. Class Project IV 11. Class Project V 12. Presentation II 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Introduction to Academic Writing (Longman)		出席、授業への参加の姿勢、課題の提出状況、小テスト等をもとに総合的に評価します。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、英語の必要不可欠な文法事項を再確認する必要性を感じている、TOEICのスコアが350～500の学生を対象としています。ただし、450～500レベルの学生は、授業に物足りなさを感じるかもしれません。</p> <p>授業では、</p> <p>① 「文法の復習とともに、1センテンスレベルの英文が確実に書けるように配慮した」テキストを用いて、文法事項の再確認と、英文の構造を理解しながらセンテンスを組み立てる（書く）練習をします。英文は、どれもBASICなものばかりです。</p> <p>各章の練習問題I～IIIに関しては、学生に板書してもらい、添削及び解説しながら授業を進めてゆきます。練習問題のIVは、課題作文として、学生全員に提出してもらう予定です。</p> <p>② また、学生の人数やレベル、及び、授業の進捗状況にあわせて、適宜プリントを併用して、簡単な課題作文を課すことも考えています。</p> <p>詳しくは、ガイダンスで述べます。</p>		<p>以下の内容は、大まかな進行予定です。</p> <p>英文を板書した場合、1回の授業で、1つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、3箇所空欄を入れています。</p> <p>テストは、授業時間の一部を使って、50点満点で、2度行う。（第1回の実施日は未定）</p> <p>1 ガイダンス 2 第1章 3 第2章 4 第3章 5 6 第4章 7 第5章 8 第6章 第1回テスト（範囲：1～4） 9 10 第7章 11 第8章 12 第2回テスト（範囲：5～8）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時のテスト + レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： AA・A：2回 B：3回 C：4回	

02年度以前	英語（上級）	担当者	石月 正伸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業方針は、春学期と同じです。</p> <p>テキストは、春学期の続きです。</p> <p>ただし、選択授業の性格からして、学生の人数とレベルに変化が生ずる可能性があるため、授業方針に関しては、適宜若干の修正が必要になるかもしれません。</p> <p>また、春学期に比べ秋学期には、プリントの併用が増えることが予想されます。</p>		<p>以下の内容は、大まかな進行予定です。</p> <p>英文を板書した場合、1回の授業で、1つの章を最後まで終えることは不可能だろうと思うので、以下の進行状況にズレが生ずるはずです。従って、4箇所空欄を入れています。</p> <p>テストは、授業時間の一部を使って、50点満点で、2度行う。（第1回の実施日は未定）</p> <p>1 ガイダンス 2 第9章 3 第10章 4 第11章 5 6 第12章 7 第13章 8 第1回テスト（範囲：9～12） 9 第14章 10 第15章 11 12 第2回テスト（範囲：13～15）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山内・赤楚・北林著『文法から攻める英作文のための15章』、英宝社		授業時の発表点 + 授業時のテスト + レポート点 評価に対応する欠席限度回数を次の通りとします： AA・A：2回 B：3回 C：4回	

02年度以前	英語（上級）	担当者	福田 哲哉																										
講義目的、講義概要		授業計画																											
<p>講義の目的 本講座は、自分の考えを英語で表現するための基礎力を養成することを目的とします。春学期における到達目標は、英語による人物の紹介です。</p> <p>講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。</p> <p>課外活動 授業外でも英文を書く習慣を身につけるために、このクラス用のサイトまたは掲示板で、英語によるディスカッションを行います。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">テーマ</td> <td style="text-align: center;">その他の活動</td> </tr> <tr> <td>1. 授業ガイダンス</td> <td>作文「英語による自己紹介」</td> </tr> <tr> <td>2. パラグラフの構成</td> <td>プレゼンテーションの基本</td> </tr> <tr> <td>3. 人物紹介</td> <td>作文「家族を紹介する」</td> </tr> <tr> <td>4. 時間に対する意識</td> <td>パワーポイントの使い方</td> </tr> <tr> <td>5. 文のつなぎ方</td> <td>作文「英語の勉強法」</td> </tr> <tr> <td>6. 符号の原則</td> <td>グループのテーマ決定</td> </tr> <tr> <td>7. ここまでの復習</td> <td>作文「～の方法」</td> </tr> <tr> <td>8. 空間に対する意識</td> <td>グループ練習</td> </tr> <tr> <td>9. 形容詞と前置詞</td> <td>作文「私の部屋」</td> </tr> <tr> <td>10. 修飾語句の使い方</td> <td>リハーサル</td> </tr> <tr> <td>11. ここまでの復習</td> <td>作文「私の好きな町」</td> </tr> <tr> <td>12. プレゼンテーション</td> <td>「人物紹介」</td> </tr> </table> <p>以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。</p>		テーマ	その他の活動	1. 授業ガイダンス	作文「英語による自己紹介」	2. パラグラフの構成	プレゼンテーションの基本	3. 人物紹介	作文「家族を紹介する」	4. 時間に対する意識	パワーポイントの使い方	5. 文のつなぎ方	作文「英語の勉強法」	6. 符号の原則	グループのテーマ決定	7. ここまでの復習	作文「～の方法」	8. 空間に対する意識	グループ練習	9. 形容詞と前置詞	作文「私の部屋」	10. 修飾語句の使い方	リハーサル	11. ここまでの復習	作文「私の好きな町」	12. プレゼンテーション	「人物紹介」
テーマ	その他の活動																												
1. 授業ガイダンス	作文「英語による自己紹介」																												
2. パラグラフの構成	プレゼンテーションの基本																												
3. 人物紹介	作文「家族を紹介する」																												
4. 時間に対する意識	パワーポイントの使い方																												
5. 文のつなぎ方	作文「英語の勉強法」																												
6. 符号の原則	グループのテーマ決定																												
7. ここまでの復習	作文「～の方法」																												
8. 空間に対する意識	グループ練習																												
9. 形容詞と前置詞	作文「私の部屋」																												
10. 修飾語句の使い方	リハーサル																												
11. ここまでの復習	作文「私の好きな町」																												
12. プレゼンテーション	「人物紹介」																												
テキスト、参考文献		評価方法																											
<i>First Steps in Academic Writing</i> Longman		平常点 50% ジャーナル（レポート） 30% プレゼンテーション 20%																											

02年度以前	英語（上級）	担当者	福田 哲哉																										
講義目的、講義概要		授業計画																											
<p>講義の目的 春学期に引き続いて、英語表現の基礎力を養成することを目的とします。秋学期における到達目標は、自分の意見の表明です。</p> <p>講義の概要 授業の中心となるのは、英作文の演習です。文法的に合っている英文を書くだけでなく、文脈にあった語彙の選択や、パラグラフ全体を考えた英文構成法も学びます。 隔週で授業内での作文実践演習を行い、講師が添削をします。さまざまなトピックで実際に英文を書いて、添削を受け、復習を繰り返しましょう。 学期の最後には、グループによるプレゼンテーションを行います。自分の英作文を口頭で発表することにより、英語で表現する力を向上させましょう。プレゼンテーションのやり方についても、授業で指導します。</p> <p>課外活動 授業外でも英文を書く習慣を身につけるために、このクラス用のサイトまたは掲示板で、英語によるディスカッションを行います。</p>		<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">テーマ</td> <td style="text-align: center;">その他の活動</td> </tr> <tr> <td>1. 授業ガイダンス</td> <td>作文「私の夏休み」</td> </tr> <tr> <td>2. 論理展開</td> <td>春のプレゼンテーションより</td> </tr> <tr> <td>3. 文のつなぎ方</td> <td>作文「性差別について」</td> </tr> <tr> <td>4. 副詞と副詞句</td> <td>講師の模範プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>5. 理由と例を述べる</td> <td>作文「理想的な人物像」</td> </tr> <tr> <td>6. 手紙文のルール</td> <td>グループのテーマ決定</td> </tr> <tr> <td>7. ここまでの復習</td> <td>作文「私的書簡」</td> </tr> <tr> <td>8. 事実と意見</td> <td>グループ練習</td> </tr> <tr> <td>9. 形容詞節の使い方</td> <td>作文「死刑制度の是非」</td> </tr> <tr> <td>10. ビジネスレター</td> <td>リハーサル</td> </tr> <tr> <td>11. ここまでの復習</td> <td>作文「ビジネスレター」</td> </tr> <tr> <td>12. プレゼンテーション</td> <td>「賛否両論のあるテーマ」</td> </tr> </table> <p>以上を基本として授業を進めますが、内容に変更が生じる場合もあります。</p>		テーマ	その他の活動	1. 授業ガイダンス	作文「私の夏休み」	2. 論理展開	春のプレゼンテーションより	3. 文のつなぎ方	作文「性差別について」	4. 副詞と副詞句	講師の模範プレゼンテーション	5. 理由と例を述べる	作文「理想的な人物像」	6. 手紙文のルール	グループのテーマ決定	7. ここまでの復習	作文「私的書簡」	8. 事実と意見	グループ練習	9. 形容詞節の使い方	作文「死刑制度の是非」	10. ビジネスレター	リハーサル	11. ここまでの復習	作文「ビジネスレター」	12. プレゼンテーション	「賛否両論のあるテーマ」
テーマ	その他の活動																												
1. 授業ガイダンス	作文「私の夏休み」																												
2. 論理展開	春のプレゼンテーションより																												
3. 文のつなぎ方	作文「性差別について」																												
4. 副詞と副詞句	講師の模範プレゼンテーション																												
5. 理由と例を述べる	作文「理想的な人物像」																												
6. 手紙文のルール	グループのテーマ決定																												
7. ここまでの復習	作文「私的書簡」																												
8. 事実と意見	グループ練習																												
9. 形容詞節の使い方	作文「死刑制度の是非」																												
10. ビジネスレター	リハーサル																												
11. ここまでの復習	作文「ビジネスレター」																												
12. プレゼンテーション	「賛否両論のあるテーマ」																												
テキスト、参考文献		評価方法																											
<i>First Steps in Academic Writing</i> Longman		平常点 50% ジャーナル（レポート） 30% プレゼンテーション 20%																											

02年度以前	英語（上級）	担当者	堀 いつみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある3つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。</p>		<p>それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行形 (Weather) ・未来形 (The Four Seasons) ・助動詞 1 (Everyday Life) ・助動詞 2 (Campus Life 1) ・受動態 (Campus Life 2) ・比較 (Shopping) ・不定詞 (Eating Out) ・現在完了 (Music) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007年		授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。	

02年度以前	英語（上級）	担当者	堀 いつみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、二つの点に重点を置きます。英文のつくりを文法的に基礎から見直すことと、つながりのある3つの英文を書くことです。パラグラフ・ライティングの準備段階にあたるこの「3行英文ライティング」の演習により、内容的にまとまりのある複数の英文を書く力の基本を身につけることができます。</p>		<p>それぞれの項目で、一つの日常的な話題を扱います。進行過程は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分詞 (Television and Radio) ・動名詞 (Methods of Communication) ・前置詞 (Methods of Transportation) ・間接疑問文 (Traveling Overseas) ・接続詞 (Health and Exercise) ・関係代名詞 (A Stay in Hawaii) ・関係副詞 (A Home Stay in Auckland, New Zealand) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
登美博之・Curt Wold 著『日常英語ライティング入門』成美堂、2007年		授業参加の度合と期末定期試験の結果を総合的に評価します。	

02年度以前 春学期完結	英語（上級）	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっとeというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとeの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. 実力診断テスト・学習プランの作成 3. 自主学習 4. 自主学習 5. 小テスト 6. 自主学習 7. 小テスト 8. 自主学習 9. 小テスト 10. 自主学習 11. 小テスト 12. 実力診断テスト (変更する場合があります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっとeプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとeホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/</p>		<p>出席 20% 学習プランと記録 30% 小テスト 40% 学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	

02年度以前 秋学期完結	英語（上級）	担当者	高木 亜希子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ぎゅっとeというコンピュータープログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力の向上を目指します。</p> <p>受講対象者： 短期間でTOEICスコアを向上させたい学習者を対象とします。集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上したい方だけ、受講してください。</p> <p>受講条件： ・TOEICスコアが350～600点 （プログラムの性質上、350点以下、または600点以上の学習者には適していません。） ・初回の授業に必ず出席すること</p> <p>本授業で求められる事項： ・20時間以上のぎゅっとeの学習 ・学習プランの作成と学習記録 ・学習自己評価 ・実力診断テストの受験 ・小テスト(4回程度)</p>		<p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスとプログラムの説明 2. 実力診断テスト・学習プランの作成 3. 自主学習 4. 自主学習 5. 小テスト 6. 自主学習 7. 小テスト 8. 自主学習 9. 小テスト 10. 自主学習 11. 小テスト 12. 実力診断テスト (変更する場合があります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ぎゅっとeプログラムを使用します。 テキストは必要ありません。 ぎゅっとeホームページ(体験版あり)http://gyuto-e.jp/</p>		<p>出席 20% 学習プランと記録 30% 小テスト 40% 学習自己評価 5% 実力診断テスト 5%</p>	

2007年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は
『全学共通授業科目シラバス』に掲載します

学則別表（2003年度以降入学者）

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）

ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などをご確認ください。

目次

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜日 時限	単位数	開始 学年	履修不可の 学部・(学科)	ページ
07690	総合講座	上野 直子	春	水3	2	1	養 経 法	1
07691	総合講座	上野 直子	秋	水3	2	1	養 経 法	1
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養 経 法	2
	情報科学概論b	休講						
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	3
00058		金子 憲一	春	月4				
00074		田中 雅英	春	火1				
00093		田中 雅英	春	火2				
00208		内田 俊郎	春	木4				
00253		松山 恵美子	春	金2				
00138		長崎 等	春	金3				
13304		内田 俊郎	秋	木2				
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	4
00044		金子 憲一	春	月3				
00109		田中 雅英	春	火3				
09037		二宮 哲	春	水2				
00019		内田 俊郎	春	木2				
00255		松山 恵美子	春	金3				
00076		田中 雅英	秋	火1				
13306		内田 俊郎	秋	木3				
00231		松山 恵美子	秋	金2				
00141		長崎 等	秋	金3				
	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	各担当教員			2	1	養 経 法	5
13162		金子 憲一	春	月5				
00201		金井 満	春	火2				
13164		金子 憲一	秋	月5				
00202		金井 満	秋	火2				
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	1	養 経 法	6
00195		内田 俊郎	春	木3				
00060		金子 憲一	秋	月4				
00096		田中 雅英	秋	火2				
00131		二宮 哲	秋	水2				
00210		内田 俊郎	秋	木4				
09305	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	春	金4	2	1	養 経 法	7
00239	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	秋	金3	2	1	養 経 法	7
09308	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	秋	金4	2	1	養 経 法	8
00048	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養	9
00111	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養	10
00156	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	春	金4	2	1	養	11
00158	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	秋	金4	2	1	養	11
00172	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	春	水2	2	2	養(言)	12
00191	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	秋	水2	2	2	養(言)	12
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	2	1	養 経 法	13
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	2	1	養 経 法	13
	社会心理学a	休講						
	社会心理学b	休講						

03 年度以降	総合講座 変わる境界	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、わたしたちが暮らす社会とわたしたち個人の成り立ちにかかわるさまざまな「境界」とその変化について考えてみます。</p> <p>たとえば次のような境界をとりあげます。国と国との境。ジェンダーの境。肌の色や民族の間の壁。あるいは有機物（人間）と無機物（機械）との境界線。ここに挙げたさまざまな境界は、(500 年の)グローバル化と資本主義化の歴史のなかでどのように変化してきているのでしょうか。境界が形成される際、それが変化する際にはどのような問題が生じるのでしょうか。そして、かつてないスピードで境界の引き直しが進行し、「越境」がたやすくなった「いま」はどんな姿をしているのでしょうか。</p> <p>「境界」があれば必ず「越境」があり、そして「越境」の先には「混濁」があります。異なった文化、人種、言語が出会い、衝突と摩擦をともしないながら、多くの問題と可能性をもった新しい何かが生まれてきます。この点についても考察していく予定です。</p> <p>やや抽象的な話になりましたが、講義では担当者が具体的なトピックをとりあげ、受講生のみなさんが、自分自身の現在、自分自身が暮らす場所について考える材料を提供していきます。</p>		<p>(1)上野直子（外国語学部・英語学科）イントロダクション</p> <p>(2)佐藤寛治（国際教養学部・言語文化学科） ボーダーランド：ふたつのアメリカが別れるところ （ティファナを中心に）</p> <p>(3)平田由紀江（国際教養学部・言語文化学科） 朝鮮半島分断を「観光する」ということ</p> <p>(4)片山亜紀（外国語学部・英語学科） 「女は産む機械」発言の何が問題か</p> <p>(5)上野直子 封印された植物 （帝国とジェンダーをめぐるエピソード）</p> <p>(6)毛利嘉孝（東京芸術大学） ロンドンの移民都市文化</p> <p>(7)浅岡千利世（外国語学部・英語学科） 多言語社会と国境を越える教育</p> <p>(8)柿田秀樹（外国語学部・英語学科）メディアの越境</p> <p>(9)小谷真理（評論家・作家）（仮）女性とSF</p> <p>(10)前沢浩子（外国語学部・英語学科） 少年俳優の演じる女—シェイクスピア劇のヒロインたち</p> <p>(11)陳天璽(国立民族学博物館) 無国籍であること、いくつものわたし、いくつもの言葉</p> <p>(12)高橋雄一郎（外国語学部・英語学科） ゴメス・ペーニャのボーダー・パフォーマンス</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	総合講座 「場」をつくる	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は「場」をキーワードとして進めます。</p> <p>個人や社会は、さまざまな「境界」によって守られ、規定され、安定を与えられています。しかし、さまざまな理由で「境界」を越えざるをえなかった人々、「境界」からはじき出された人々、「境界」ゆえに苦しみを抱え込まれている人々が存在することも事実です。</p> <p>さまざまな事情で国境を越えた人々、超えさせられた人々（その代表が西アフリカから新世界へと運ばれた黒人奴隷でしょう）。あるいは女と男との定められた「境界」の内側には安寧の場所がない人々。「境界」を越えざるをえず、安住の「場」を得がたい個人が、どのようにして自分の人生の支えとなる「場」をつくっていくのかを考えてみましょう。</p> <p>秋学期にとりあげる「場」は、具体的な場所の場合もあれば、言葉、音楽、食文化というような具体的な場には限定されないもの場合もあるでしょう。またこのような「場」が、「境界」に与える影響についても考察してみるつもりです。</p>		<p>秋学期の予定については、秋学期登録に先立ち、掲示板に掲示するとともに、講義支援システムにも掲載します（なお、講義支援システムへの掲載ができない場合は、その旨を掲示します）。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意します。参考文献は担当講師が紹介します。</p>		<p>コメントカードと期末試験を総合的に評価します。評価方法に変更がある場合は開講時に説明します。</p>	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組み、および、複数の言語を活用するための言語資源(辞書、シソーラス、コーパス、WEB)の使い方について学びます。さらに、実習を通じて、自動翻訳システムや質問応答システムの活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標、多言語情報処理の目的 2 コンピュータの世代論と情報処理 3 コンピュータの構成 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム (OS) OS の基礎概念、OS の役割と原理 6 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 コンピュータによる日本語・英語の情報処理 8 多言語処理のための言語資源—辞書、類語辞書、コーパス、WEB 9 多言語間自動翻訳の仕組み 10 質問応答システムと自動翻訳ソフトの演習 11 オンライン多言語学習の演習 12 インターネット上の多言語処理技術 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 情報技術の応用 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかはすでに履修済みの場合、本科目は履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション、日本語入力とタイピング 3 コンピュータ・ネットワーク 4 インターネットの仕組み 5 インターネットブラウザ・メール・検索 6 情報倫理とセキュリティ 7 文書の作成1—文章の作成、書式の設定 8 文書の作成2—表の作成、グラフの作成 9 文書の作成3—画像とオブジェクトの利用 10 レポートの作成—文章校正、長文作成 11 情報技術の応用 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用 (1) 6 関数の利用 (2) 7 関数の利用 (3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、表の編集 3 計算式の利用、セルの参照方法 4 グラフの作成、装飾、印刷 5 関数の利用 (1) 6 関数の利用 (2) 7 関数の利用 (3) 8 データベース機能とデータの処理 9 プレゼンテーション(1)―作成(MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)―作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)―発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』 各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論（プレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW とホームページの基礎知識 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』、各担当教員の指定する参考文献を使用する。		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、同じ一連の操作を繰り返す場合に、大変便利な機能である。ここでは、毎回行う一連の操作手順を記録・登録させておく「記録マクロ」を中心に学習していく。</p> <p>簡単な「記録マクロ」の作成から、そのマクロ機能で自動作成される VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎を理解することを目標とする。これまで習得してきた Excel 利活用基礎能力を基に、より実践的なマクロ機能を利用しながら、自分自身で Excel を利用していく Excel 利活用応用能力を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、Excel 基本操作の復習 2 マクロ機能と VBA とは 3 記録マクロの作成と実 4 オブジェクトボタンからの記録マクロの利用 5 マクロのコード入力 6 第 1 回目課題提出 7 簡単なゲームの作成（1） 8 簡単なゲームの作成（2）および第 2 回目課題提出 9 記録マクロと VBA の利用（1） 10 記録マクロと VBA の利用（2） 11 記録マクロと VBA の利用（3） 12 確認テストおよび最終課題提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用 1）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様。		春学期と同様。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同様。		春学期と同様。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級－表計算応用2）	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、情報科学各論（中級－表計算応用1）の単位を修得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級－表計算応用1）で学んだ記録マクロを、応用性のあるものへと発展させていく。</p> <p>ユーザフォームの作成および利用を通して、VBA(Visual Basic for Application)プログラミングの基礎をさらに理解しつつ、それらを作成する VBE(Visual Basic Editor)の利用についても理解することを目標とする。</p> <p>また、フローチャートおよびアルゴリズムを学習することで、論理的な思考を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよび記録マクロの復習 2 VBA と VBE 3 変数の利用 4 条件による分岐の利用 5 処理の繰り返しの利用 6 配列の利用および第1回目課題提出 7 ユーザフォームとは 8 簡単なユーザフォームの作成（1） 9 簡単なユーザフォームの作成（2） 10 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（1） 11 項目の選択を利用したユーザフォームの作成（2） 12 確認テストおよび最終課題提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局		平常点 50%（出席および課題提出）、確認テスト 50%で総合評価を行う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用（1） 11 CGI の利用（2） 12 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示、紹介する。 プリントの配布（Web 上も含む）も行う。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格等とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級—HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済み、あるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJavaScriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. プログラミングの考え方 3. Webページのネットへのアップロード等 4. JavaScript 1 5. JavaScript 2 6. JavaScript 3 7. JavaScript 4 8. CGI 9. ホームページのブラッシュアップ 10. 情報の収集 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある。データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（初級一表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう。そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2003』， 実教出版 『図解雑学データベース』， ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03 年度以降	情報科学各論(中級-プログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返してプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方を始め、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 財政赤字と日本経済 11. 開放マクロ経済 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス ドイツ語学科

2007年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	